

一本則第九條第四十二條第四十四條ノ場合ニ於テ外國人ヲ警察署ニ同行シタルルキハ署長ヨリ懇篤説諭シ放遣スヘシ但放遣シ難キモノト思料スルルキハ本署長ノ指揮ヲ受クルモノトス

一第十九條第二十條ノ場合ニ於テハ警部ヲ派遣シ又ハ署長出張シ懇篤説諭シテ立戻ラシメ若クハ差支ナシト認ムルルキハ通行セシムヘシ但第二十條ノ場合ハ本船ニ立歸ラシムルモノトス

一第二十六條第二十七條第五十三條ノ場合ニ於テハ本署長ノ指揮ニ從フヘシ一第六十六條ノ場合ニ於テハ一應取亂タル上放遣シ置クヘシ

一朝鮮國及條約未濟ノ外國人違警罪ヲ犯シタルルキハ他人ニ損害ヲ蒙ラシメタル場合ヲ除クノ外説諭シテ放遣スヘシ

○警部長口達 明治十六年十二月三日 各部署  
本邦在留朝鮮人ノ義ハ總テ我國法ニ服從スヘキモノナレハ若シ法律規則ヲ犯シタルルキハ内國人同様可取扱ハ勿論ニ候得共違警罪犯ノ場合共一身上ニ係ルハ説諭ニ止メ他ニ損害ヲ被ラシメタルハ稟議ノ上處分ス可シ旅行遊歩ニ就テハ未タ他國人ノ如キ規程無之ニ付往來宿泊等ニ際シ不都合無之様豫テ夫々ヘ申合メ置ク可シ

警部長口達ノ中  
其ニ之ヲ載スル  
者ハ其趣旨タル  
須要ノ件ナルヲ  
以テナリ但此達  
ニ依リ十六年ニ  
月本甲第七十三  
號ニハ消滅ス

○本乙第四十七號 明治十九年五月廿九日 水上區部會根崎 天王寺塚岸和田警察署  
外國軍艦乘組士官等上陸ノ儀ニ付別紙ノ通同指令相成タル旨内務省ヨリ通知有之候條爲心得此段相達候也

警乙第四十三號 明治十九年五月十七日

外國軍艦乘組士官等上陸之儀ニ付愛知縣令ヨリ伺出ニ付指令相成候條爲御心得別紙寫相添此段及御通知候也

愛知縣令 明治十九年四月十七日

過般當縣下武豐清洲間鐵道瀟車開設ニ付將來外國人來游スルモノ追々可有之景況ニ候處頃日外務大臣ヨリ別紙之通訓令有之既ニ過ル十五日該軍艦來港續テ名古屋城見物ノ爲メ上陸候ニ付夫々接待方適宜取計置申候右軍艦乘組員ハ別段旅行免狀ハ無之候ヘ外務大臣ノ特令有之ヲ以テ上陸爲致候ヘ外將察若シ旅行免狀無之軍艦乘組士官等上陸希望候節外務大臣ノ特令モ無之モノニ候ハ、一切上陸拒絶セシメ自然哉外交上關係有之儀ニ付爲念相伺候間至急何分ノ御指揮有之度候也  
(内務省指令) 明治十九年五月十一日  
書而伺之通  
但暴風其他災難ニ遭遇シ又ハ薪水食料欠乏等實際不得止場合ニ於テ寄港一時上陸ノ義ハ此限ニアラス

### 第五章 洋和語對句

○乙市郡第六十號 明治十三年十月二十二日

外國人應接ノ便ニ備ヘン爲メ今般印刷及候洋和語對句ノ小冊各巡査ヘ支給候條每署部數并姓名ヲ記載シ受取方御申出有之度此段及廻達候也  
但本人ヘ相渡候節ハ被服證書ヘ無洩記入可致尤轉免ノ節ハ返納候儀ト御心得可有之候事



Shooting being prohibited in this place, you are not allowed to shoot here.

Il ne faut pas chasser ici car c'est défendu.

成ラス 此ノ所ハ銃獵禁止ノ場所ニ付銃獵相

This place being beyond the Treaty Limits please get back as far as within the Limit.

Veillez retourner le plus tot possible dans la limite des traités car vous en êtes sorti.

引取ラレヨ 此ノ所ハ條約規程外ニ付速ニ規程内ニ

Please write your name in this memorandum.

Veillez s'il vous plait inscrire votre nom sur ce mémorandum.

載セラレヨ 貴名ヲ此ノ手帳ニ記

Please let me examine your Shooting License.

Veillez m'exhiber pvotre permis de chasse.

點檢セシメヨ 請フ汝ノ銃獵免狀ヲ

This place being outside of the Treaty Limits, shooting is not allowed here.

Cet endroit étant hors de la limite des traités, la chasse n'y est pas permise.

獵相成ラス 此ノ所ハ條約規程外ニ付銃



No passage is allowed here,  
please take another road.

Il est défendu à qui que ce  
soit de passer ici.

此處ハ往來禁止ノ場所ニ付外道ニ避  
ケラレヨ

As I have something to question  
this Jinrikisha-man, please wait  
a moment.

Ayant besoin de demander  
quelque chose à ce traîneur, je  
vous prie d'attendre un moment.

此車夫ニ尋問ノ次第アレハ暫ク俟タレ  
ヨ

This place being close to  
dwelling house, shooting is not  
allowed here.

Cet endroit étant trop près  
des habitations, il ne faut pas y  
chasser.

此ノ所ハ人家ニ接近スルニ付銃獵相  
成ラス

This place is prohibited for  
the passage of Cattle and general  
Vehicles, please take another  
road.

Il est défendu aux voitures,  
chevaux et bœufs de passer ici.

此處ハ牛馬車通行禁止ノ場所ニ付外道  
ニ避ケラレヨ



第六章 大阪居留地區域

○本達乙第三十二號

明治十九年十月四日

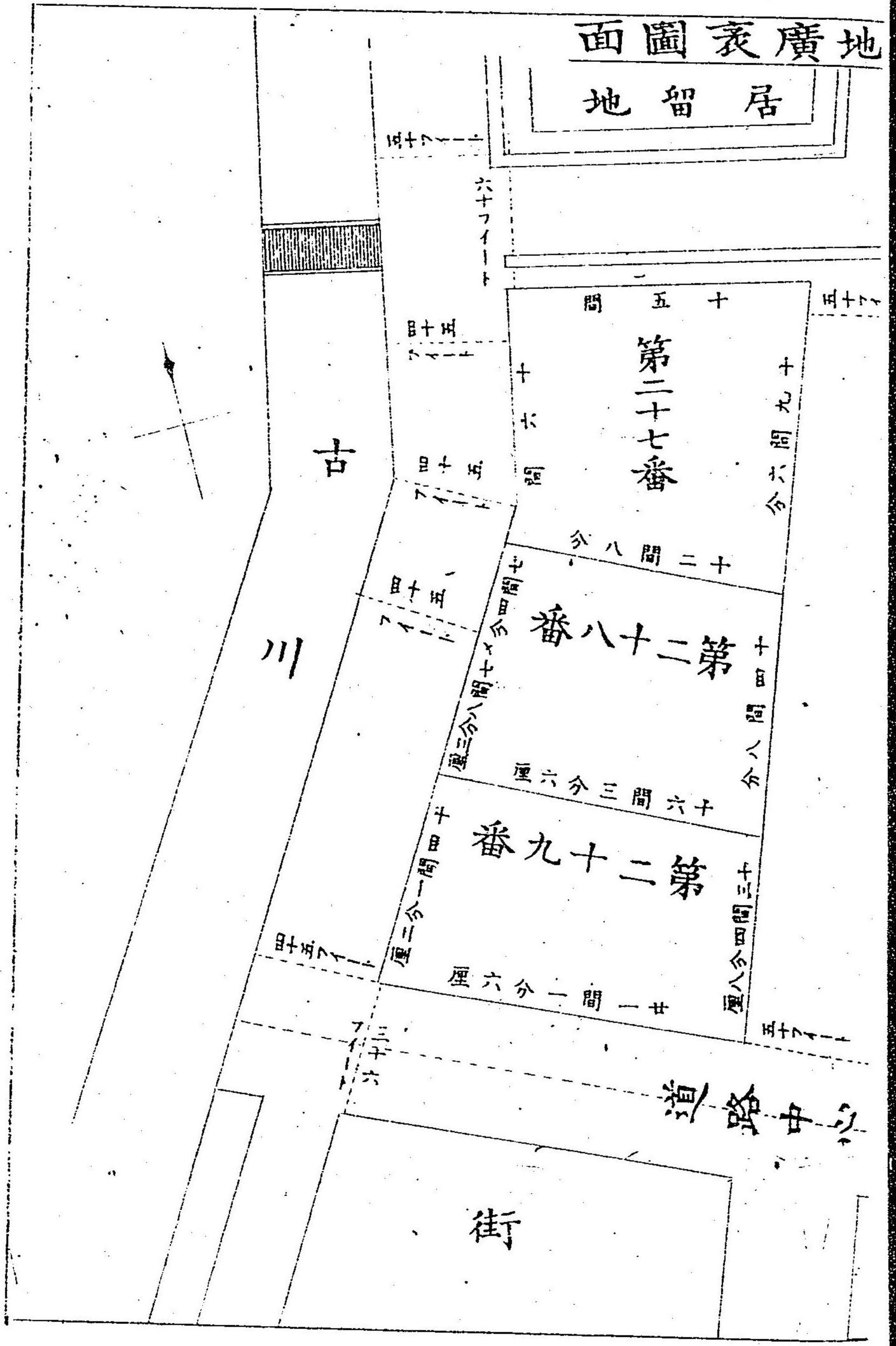
各課水上區部會根崎  
天王寺警察署

今般外國人居留地別紙之通線<sub>道路中心</sub>以內取擴相成タルニ付テハ職務執行ノ區域彼我  
臨交セサル様注意スヘシ



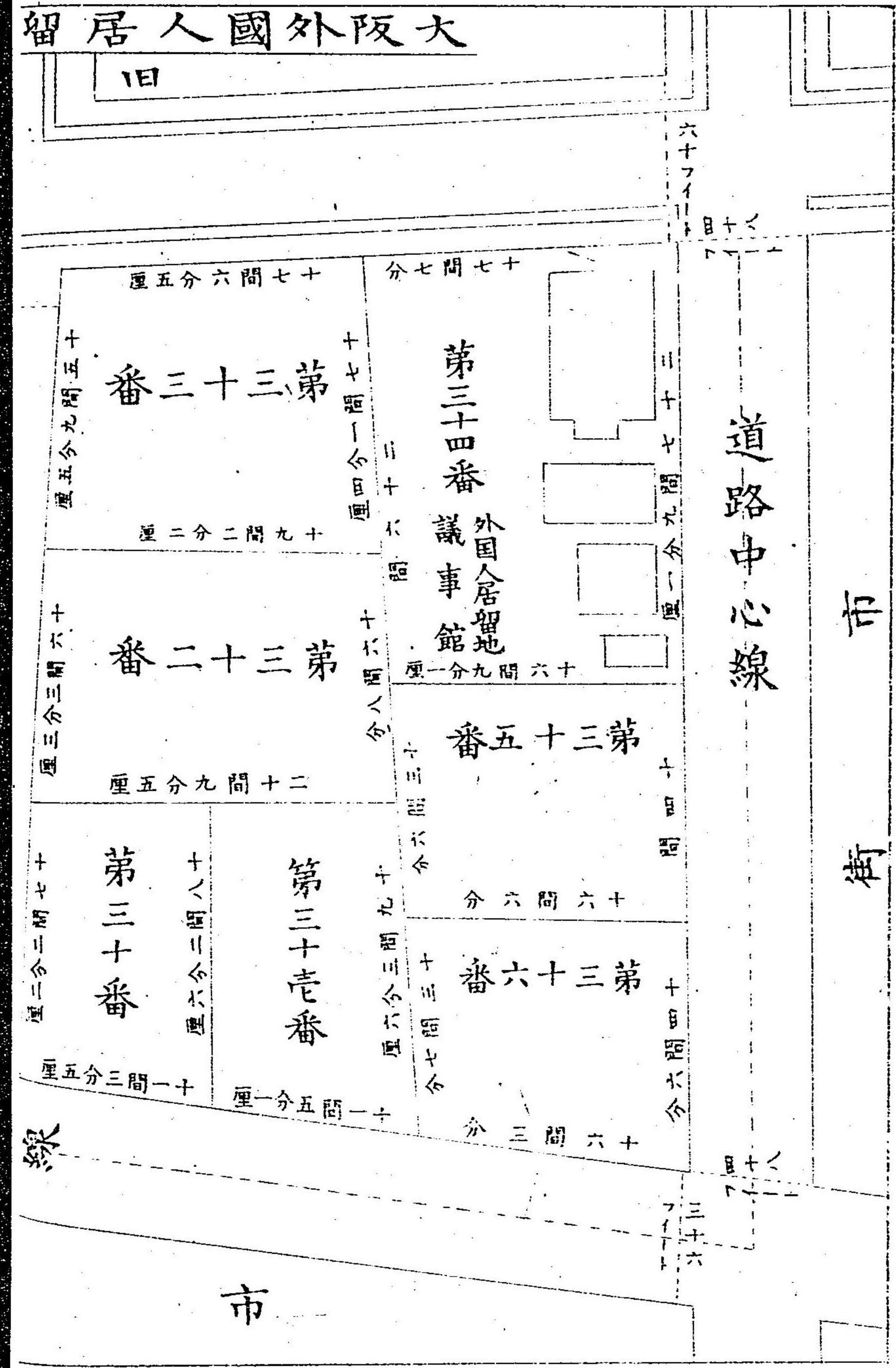
面圖表廣地

地留居



留居人國外阪大

旧





○本達乙第三十六號 明治十九年十月八日  
各課安治川水上區部  
會根崎天王寺警察署  
居留地取贖ニ付乙第三十二號ヲ以テ相達置候處右境界タル道路ニ於テ發生セ  
シ事件又ハ追跡逮捕等ニシテ專ハラ人身ノ拘致ニ係リ猶豫スヘカラサル場合  
ニ限リ中心ノ境界ニ拘ハラス互ニ街路ト宅地ノ境界マテ進入スルヲ得ル義ト  
心得ヘシ



第十一編 會計

第一章 出納及給與

第一款 會計定則

○本達乙第七拾六號 明治十九年十二月廿三日 警察署  
 警察署會計定則別冊之通相定メ來ル明治二十年一月一日ヨリ實施ス  
 但十八年丁第四十四號達ハ廢止セラレ  
 警察署會計定則

第壹章 總則

第一條 警察署ニ於テ取扱フヘキ金錢及物品ノ出納ハ總テ本則ニ據ルヘシ  
 第二條 本則ニ據リ取扱フヘキ金種ハ警察費允請巡查費巡查積金保證金臨時  
 寄托金及雜收入金ノ六種トス  
 第三條 警察費及雜收入金ノ科目左表ノ如シ  
 支出ノ部

大科目	中科目	小科目	細節
警察費	俸給	巡查月給	











	警察費雜入	巡查以下懲罰金
		巡查以下賠償金
		不用品賣却代
	密賣淫過料金	
手	數	料

第四條 會計ハ其年四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ一週年度トス

第五條 收入ヲ以テ直チニ支出ニ轉用シ若クハ甲年度ニ屬スル收支ヲ以テ乙年度ノ收支ト混用スルヲ得ス

第六條 經費定額ハ每會計年度前之ヲ達スルモノトス

第七條 前條定額金ハ月割ヲ以テ前月廿五日迄ニ本部第三課ヨリ送付スルモノトス

第八條 會計主任ハ警部若クハ警部補ヲ以テ之ニ充テ金錢及物品出納上ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當セシム

第九條 金庫ハ會計主任之ヲ管守シ其開閉ハ必ス署長ノ立會ヲ要ス但署長不在ニシテ會計主任其代理タルキハ全僚ノ立會ヲ要ス

第十條 定額内中科目ヲ彼是流用セントスルキハ其事由ヲ詳記シ本部へ稟議シ小科目以下ハ署長限リ決行シ其都度報告スヘシ

第十一條 金錢及物品ノ出納ニ關スル諸帳簿及證書類ハ常ニ整理保存スヘシ

第十二條 會計上實況視察トシテ時々検査員ヲ派遣シ之ヲ監査セシム

第二章 金錢出納

第十三條 金錢ノ出納ハ假令非常臨時ノ際ト雖モ成規ノ順序ヲ經ルニ非ラサレハ執行スルヲ得ス

第十四條 金錢ノ出納ハ其年度經過后一ヶ月ヲ限リ閉鎖スルモノトス若シ検査上ヨリ差違ヲ發見シ出納ヲナスハ此限ニアラス

第十五條 金錢ノ收納ハ納證書(納証ナキモノハ主任譯書ヲ作リ)ヲ調査ノ上年度印科目印及發議印ヲ捺シ會計主任及署長檢印ノ后決行印ヲ捺シ離形ニ準シ領收證書ヲ製シ之ヲ發スヘシ

但小科目ノ齊シキ納書一時ニ貳通以上アルキハ便宜傳票ヲ付スルヲ得ヘシ

第十六條 金錢ノ支拂ハ請求書(月俸ノ如キハ主任譯書ヲ作リ)ヲ調査ノ上年度印科目印及發議印ヲ捺シ會計主任及署長檢印ノ后決行印ヲ捺シ離形ニ準シ支拂切符ヲ製シ之ヲ正當請取人ニ渡シ領收ノ證ヲ與書セシムヘシ尤モ隔地送金ニ對スル



請求書領收證ハ此限ニアラス

但小科目ノ齊シキ請求書一時貳通以上アルキハ便宜傳票ヲ付スルヲ得

ヘシ

第十七條 現金ノ出納ハ爲換方命令書ニ據リ總テ爲換方ヲシテ之ヲ取扱ハシ

ムヘシ

第十八條 支拂切符ヲ受取人領受ノ後チ若シ紛失スルカ或ハ水火盜難等ニ罹  
リタルモノアリテ届出ルキハ即時爲替方ニ通知シ其切符ニ對スル支拂ヲ停  
止シ而シテ其事故ノ原因ヲ取糺シ證據分明ナルモノニ限り再ヒ切符ヲ製ス  
ルヲ得此場合ニ於テハ切符表面ニ重複渡ノ印ヲ捺シ其旨爲替方ニ通知ス  
ヘシ

第十九條 經費ハ左ノ順序ヲ以テ取扱フヘシ

第一項 俸給ハ俸給規則ニ據リ支出スヘシ

第二項 旅費ハ旅費規則ニ據リ支出スヘシ

第三項 雜給中雇給ハ左ノ順序ヲ以テ取扱フヘシ

第一節 繩夫以下日給ハ前月廿六日ヨリ其月廿五日迄ノ分廿八日(休暇ニ  
當ルキ  
ハ繰  
上ケ)ニ支出スヘシ

第二節 寫字生ヲ臨時雇入タルキハ日給金貳拾五錢以內ヲ以テ支出スヘ

第三節 醫師ヲ檢視又ハ留置人等ノ診斷ヲ要シ若クハ鑑定人評價人等ヲ

雇入タルキハ給料壹度金三拾錢以內ヲ以テ支出スヘシ

第四節 臨時人夫ヲ雇入タルキハ日給金貳拾錢以內ヲ以テ支出スヘシ

第五節 犯罪人護送ノ節疾病等ニテ步行ナシ能ハサルキ又ハ醉倒人全上  
ノキ雇入タル車馬船駕籠等ノ賃ハ實費ヲ以テ支出スヘシ

第六節 爲換方給料ハ其命令書ニ據リ九月兩度ニ支出スヘシ

第四項 手数料ノ内爲換方ニ下付スヘキモノハ其命令書ニ據リ九月兩度郵  
便爲換手数料ハ其時々實費ヲ以テ支出スヘシ

第五項 被服費ノ内肌着袴下靴々下料ハ別ニ定ムル處ノ價格ニ據リ支出ス  
ヘシ

第六項 需用費郵便稅電信料及運搬費ハ實費ヲ以テ支出スヘシ

第七項 巡查以下並ニ犯罪人賄料ハ其成規ニ據リ支出スヘシ

但留置人賄料ハ一食金壹錢八厘以內ヲ以テ支出スヘシ

第八項 雜費ハ左ノ順序ヲ以テ取扱フヘシ

第一節 本分署借家及借地料ハ豫テ定メタル金額ニ據リ支出スヘシ

第二節 臨時借家及物品借入損料取縮鑑札新調修繕費ハ實費ヲ以テ支出



スヘシ

第廿條 允請巡查費ハ左ノ順序ヲ以テ取扱フヘシ

第一項 請願人ヨリ前納シタル費金ハ其時々本部第三課へ送付スヘシ

第二項 該費用ハ每壹ヶ月分概算ヲ以テ本部第三課ヨリ交付スルモノトス

第三項 允請巡查給與方法ハ一般巡查ト異ナルヲナシ

第廿一條 巡查積金及保證金取扱順序ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ

第廿二條 臨時寄託金ハ別ニ精算ヲ要セスト雖モ常ニ其事蹟ヲ明ニスヘシ

第廿三條 雜收入金ハ各其成規ニ據リ徵收シ其月分取纏メ翌月五日限り該署

ヲ發シ本部第三課へ送付スヘシ

第廿四條 假出及繰替金ハ左ノ順序ヲ以テ取扱フヘシ

第一項 出張旅費及郵便税電信料等追テ精算ニ立ツヘキ金種ハ假出スルヲ

得ヘシ

第二項 赴任旅費及分署豫備金(十圓以内)拘留人賄料等追テ返納スヘキ金

種及金額拾圓以内ノ營繕費(竣功シタルモノニ限ル)ハ便宜繰換置クヲ得ヘシ

第三章 金錢記簿

第廿五條 金錢出納記簿法ハ複記法ヲ用ユ其摸本様式ハ別ニ定ムル所ニ據ル

ヘシ

第廿六條 金錢出納ニ關スル帳簿計表左ノ如シ

現金受拂簿

日記簿

原簿

警察費内譯簿

允請巡查費口別簿

巡查積金口別簿

保證金口別簿

臨時寄託口別簿

雜收入金口別簿

假出金類別簿

繰換金類別簿

日記表

現金受拂區分表

右簿冊ハ取捨増減スルヲ許サスト雖モ允請巡查費口別簿保證金口別簿ハ該費  
目ヲ取扱フ所ノ署ニ限ル

第廿七條 帳簿へ記入スル金員ニ係ル文字ハ總テ亞刺比亞數字ニ限ル



第廿八條 記簿ハ金錢ヲ出納スヘキ證憑ニ據リ之カ記入ヲナスヘシ

第廿九條 記簿ハ書損脱落スルモ漫リニ削除塗抹糊貼ヲ許サス書損ハ正中ニ二線ヲ横畫シテ之ヲ削抹シ正字ヲ其上ニ記載シ脱落ハ挿入活孤ヲ施スヲ以テ一般正誤ノ法トス

第三十條 記簿ノ後チ其證憑ニ誤謬アルヲ發見スルト雖モ輒ク之ヲ訂正スルヲ許サス會計主任ヨリ其事由ヲ詳記シタル證憑ニ署長ノ檢印ヲ得テ然ル后チ正誤スルヲ得ヘシ

第三十一條 諸帳簿ハ他ヨリ覽觀ヲ請フ者アルモ漫リニ之ヲ展縮セシムルヲ許サス他ヨリ照査ヲ請フモノナルモ主簿者自ラ照校シテ其當否ヲ報スヘシ  
第三十二條 其日ノ出納ハ即日三大簿ニ登記シ日計表及現金受拂區分表ヲ製スヘシ

但補助簿ハ遲クモ三日以内ニ記簿ヲ了スヘシ

第卅三條 諸帳簿及ヒ證憑ハ堅固ニ藏置シ常ニ水火等ノ災ヲ豫防スヘシ

第四章 決算

第卅四條 精算書ハ其月分翌月五日限り(允請巡查満期ノ日ハ其都度)該署ヲ發シ本部第三課ヘ送付スヘシ

但正倉院、金庫局、米廩、ノ允請巡查費ハ領收證書ヲ添付スヘシ

第五章 物品出納

第卅五條 物品ノ出納ハ成規ノ順序ヲ經ルニ非ラサレハ之ヲ執行スルヲ得ス

第卅六條 需用品ノ購求ヲ要スルモ豫メ價格ヲ調査シ稟議簿ニ詳記シ署長ノ決裁ヲ經テ執行スヘシ

第卅七條 需用品ハ其實用ニ堪ユルヲ主トシ華美ニ涉ルヲ許サス  
但消耗品ハ其形狀ノ變化消滅スルモノナレハ適宜取締法ヲ設ケ濫費セサル様注意スヘシ

第卅八條 物品ノ出納ハ左ノ帳簿ヲ設ケ常ニ其出納及現在高ヲ明ニスヘシ  
需用品購求稟議簿

備用品受渡簿

消耗品受渡簿

被服及屬具品受渡簿

第卅九條 備品ヲ渡スルハ預リ證書ヲ徴シ置キ轉免ノ際現品ト照合返納セシムヘシ

第四十條 消耗品ヲ渡スルハ受取人ノ證印ヲ徴シタル后チ現品ヲ交付スヘシ

第四十一條 不用ニ屬スル物品ハ品目數量及事由ヲ詳記シ公賣ノ可否ヲ本部



へ稟議スヘシ

但認可ヲ得タルキハ必ス二名以上ニ投票ノ上公賣ニ付スヘシ

第六章 財産管理

第四十二條 財産ノ管守ハ署長之ヲ總理シ會計主任之ヲ管掌スヘシ

但分署ハ分署長之ヲ管掌スヘシ

第四十三條 所管ノ財産ハ原簿ヲ作り其種類ヲ分チ總テ之ニ記入シ常ニ現在

高チ明瞭ニスヘシ

第七章 營繕

第四十四條 本分署及派出所建築修繕ハ其都度事由及工事ヲ要スル箇所ノ圖

面並ニ費用目論見書ヲ以テ本部へ稟議スヘシ

但區部派出所ノ硝子障子及門燈(地下ヨリ直立スルモノニ限ル)修繕ハ署長之ヲ決行スルヲ

得

第四十五條 前條工事竣工ノ上ハ速ニ本部第三課へ報告シ受負人ノ請求書ヲ

添へ費額回金ヲ請フヘシ

第四十六條 工事中ハ會計主任ヲシテ其實況ヲ監査セシムヘシ

第二款 經費金不足申出方

○本甲第三百五十七號 明治十五年十一月十日

各署

各警察署經費金ニ不足ヲ生シ追渡ヲ要スルトキハ該請求書へ別紙書式ノ住譯書ヲ添へテ本署第四部へ可申出此段及通達候也

(書式)

何年何月何日經費金住譯書

會計主任ノ印以下全シ

一金何程○(勘定書類ニ添付ス)

何月一日越高

内譯

金何程○

何月何日迄

金何程○

本拂ノ分

内

金何程○

何々

金何程○

何々

(以下仮拂一廉限リ記載スヘシ)

右之通相違無之候也

何警察署長

年月日

官姓名印

警部長宛



### 第三款 金錢出納ニ關スル書類記載心得

○本甲第九十五號 明治十七年八月二日 部所署

金錢物品等出納ニ關スル一切ノ書類ニ記載スル數字ノ儀ハ七年第九十六號公達之趣モ有之候處往々右達ニ戻リ候向モ有之不都合之至ニ候條爾後疎漏無之様注意可致爲心得此段及通達候也

但十六年本甲第四百四十號通達ハ消滅之儀ト心得ヘシ

○本甲第五十號 明治十九年四月十五日 部 署

近來金錢出納ニ關スル諸証書類中 傳票取書請求書任課書領收証書送金証書精算書明細表等總テ包含ス 書損及脱落ノ廉改削塗抹糊貼ノ痕相見ヘ訂正其宜シキテ得ス且ツ字体ノ如キモ往々艸書アリ爲メニ解讀ニ苦ミ推問往復徒ラニ手數ヲ煩ハスノミナラス將來紛雜ヲ生スルノ基ニ付自今書損ハ其正中ニ朱ヲ以テ二線ヲ縱畫シ脱落ハ插入括弧ヲ施シ各其右側ニ正書ヲ消線及ヒ括弧ニ證印シ其字体ハ楷行ノ二書ニ限ルヘシ此段相達候也

### 第四款 出張先ニ於テ旅費欠乏操換及臨時操換金期限

○本甲第九十六號 明治十七年八月五日 部 署

警部御用掛巡查雇等出張先ニ於テ旅費欠乏ノ旨ヲ以テ線換渡之儀申出ト雖モ出張員所屬部署長ノ照會アラサレハ一切貸與不相成候條此段及通達候也

○本甲第十號 明治十九年一月廿一日 部所署 第一部第二部第三部第五部ヲ除ク

線換金(分署豫備金ハ除之)返納ノ義ハ自今五十日ヲ過ルヲ得ス此段相達候也 但從前未結ノモノハ本日ヨリ起算シ本文ニ準ス

### 第五款 警察費其他ノ証書々式及領受証書用紙

○本達甲第拾四號 明治十九年十二月廿三日 課 署

警察費其他ノ証書々式別冊之通相定メ來ル明治二十年一月一日ヨリ實施ス(別冊ハ略ス)

○本甲第百十一號 明治十八年十一月廿日 部所署

警部諸費及ヒ警察費允請巡查費等ノ支出ニ係ル警部以下ヨリ徴スル所ノ領受証書ノ義ハ來ル十二月一日ヨリ官署名記入アル用紙使用不相成候條此段及通達候也

### 第六款 金錢支拂時限及授受注意方

○本甲第二百二十六號 明治十五年七月六日

本署第四部金錢物品支拂時限左之通相定候條爲心得此段及通達候也 但臨時至急ヲ要スルトキハ此限ニアラス

十八年本甲第三十號ヲ以(受)テ(支)ト改正

### 第十一編會計

警察費其他ノ証書々式及請求領受証書用紙 金錢支拂時限及授受注意方 十七



一午後<sup>二時</sup>退廳ノ節ハ正午十二時限リ

一正午十二時退廳ノ節ハ午前十一時限リ

○本甲第二十一號 明治十九年二月十三日

第四部  
警察署

金錢授受ノ義ハ最モ鄭重確實ヲ要スヘキハ勿論ナリ然ルニ支拂金ノ如キハ往々委任狀ヲ所持セサル代人ニ下渡ス向モ有之哉ニ相聞ヘ候處右ハ當ニ取扱上疎漏ナルノミナラス將來紛錯ヲ招クノ基ニ付自今是等ノ不都合無之樣篤ク注意スヘシ此段相達候也

○本甲第二十號 明治十九年二月十三日

第四部  
警察署

已ニ支出シタル金員ニシテ正當受取人ヘ未渡ノモノ領置日數十日ヲ超過スルハ臨時寄托ヘ受入ノ上追テ下渡ノ手續ヲナスヘシ此段相達候也

### 第七款 屎尿代收入

○本甲第十三號 明治十九年一月廿七日

第四部  
警察署

屎尿代之儀來ル十九年度ヨリ地方稅雜收入ニ編入スヘキ旨被相定候條賣却ノ都度警察費雜入屎尿代トシテ本署第四部ヘ送付スヘシ此段相達候也

○本甲第七十二號 明治十九年五月廿八日

第三部  
警察署

屎尿代收入科目ノ義ハ警察費雜入中不用品賣拂代ノ小科目ヘ編入スヘキ義ト心得ヘシ此段相達候也

### 第八款 會計檢査規定

○本甲第二百二號 明治十八年十一月二日

各警察署  
商船取締所

今般本乙第八十六號ヲ以テ會計檢査規程別紙之通第四部ヘ及通達置候條爲心得此段及通達候也

但第四部員檢査濟ノ後若シ會計地方稅向課員派出檢査ノ際誤謬ヲ發見シタルハ訂正ノ上直ニ其旨具申スヘシ

#### 會計檢査規程

第一條 各警察署及商船取締所ノ會計檢査ハ定則ニ據リ檢査員ヲ派遣スヘシ

第二條 檢査員ハ一年三回以上派遣スヘシ

第三條 檢査員ハ檢査員タルヲ証明シタル上檢査ニ着手スヘシ

第四條 檢査員ハ會計ノ帳簿及金錢物品ノ出納ヲ檢査シ且事業ノ實況ヲ查閱スヘシ

但本條ノ外ト雖モ檢査上必要ト認ムル書類及物品ハ悉皆之ヲ点檢シ主務者ノ辨明ヲ求ムルヲ得

明治十九年丁酉  
四月十四號ヲ以テ  
商船取締所  
廢止ス



第五條 検査員ハ爲換預ケ金及別途金ノ現在高チ検査スヘシ

第六條 検査員ハ検査上誤謬若クハ成規ニ悖戾スルモノヲ發見シタルキハ直ニ訂正セシムヘシ

但其事理ノ不明瞭ニシテ成規ノ標準スヘキナキカ或ハ該署所長ノ專斷ニ出ルモノ、如キハ其旨具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第七條 検査員ハ検査中一時金錢及物品ノ出納ヲ停止シ時宜ニ依リ帳簿及証書等ヲ封緘スルヲ得

第八條 検査員ハ検査中要用ノ場合ニ於テハ會計主任及署所長ノ立會ヲ要スルヲ得

第九條 検査員ハ帳簿及証書等検査ヲ了シタルキハ其簿冊ニ左ノ通朱記捺印スヘシ

自何年何月何年何月何日検査了官氏名

第十條 検査員ハ検査完結ノ後會計事務ノ舉否及其検査ノ景況ヲ詳記シタル復命書ヲ差出スヘシ

第九款 警部給與取扱順序

○内達乙第四號 明治十九年九月廿五日

警察署

警部給與取扱順序左ノ通相定メ來ル十月一日ヨリ施行ス

但本文ニ抵觸スル從前ノ達ハ廢止ス

警部給與取扱順序

第一條 警部給與ハ毎月廿二日迄概算ヲ以テ第三課ヨリ交付スヘキニ付各成規ニ依リ之ヲ支給スヘシ

但年度末ニ至リ殘余アルキハ第三課へ還付スヘシ

第二條 收支ハ別途金中一ノ帳簿ヲ設ケ渾テ之ニ記入シ常ニ其事蹟ヲ明ニスヘシ

但其様式ハ第三課ノ通知ニ依ルヘシ

第三條 旅費ハ版着後三日以内賄料ハ翌月三日迄ニ請求書ヲ徴スヘシ

但俸給及惠與ハ請求書ヲ徴スルニ及ハスト雖モ仕譯書ヲ以テ傳票調製ノ憑據トスヘシ

第四條 本人へ支給濟ノ請求書及領受証書ハ各二七ノ日休暇ニ當ルキハ次日其前日迄請求ノ分ヲ取纏メ送致書ヲ添付シ第三課へ送付スヘシ

但年度異ナルモノハ各別ニ送致書ヲ付スヘシ

第五條 請求書領受証書仕譯書及送致書ハ別紙雛形ニ依リ調製スヘシ(別紙雛形ハ略ス)

第十款 傭員俸給支給規則及俸給別



●廳達第四十八號 明治十九年十月八日

各部長

備員俸給支給規則別紙ノ通相定ム

備員俸給支給規則

第一條 月俸ハ毎月二十七日日給ハ毎月二十八日(前月二十六日ヨリ翌月二十五日迄ノ分)支給スルモノトス

但休日ニ當ルキハ操上ケトス

第二條 日給ノモノ歸省又ハ病氣其他事故ニヨリ上廳セサルキハ支給セスト雖左ニ掲クル事故ニ限り其日給ヲ支給ス

一官廳一般ノ休日

但前日病氣ヲ爲メ上廳セズ翌日休日ナルキハ其休日ノ俸ヲ給セズ

一公務ニヨリ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルキ

第三條 月俸ノモノ新ニ拜命ノキハ其職務ニ就キタル當日ヨリ日割ヲ以テ支給シ解備及死亡ノ月ハ全月分ヲ支給ス

但他所在勤又ハ出張中解備ノモノニシテ其令書翌月ニ至リ本人ニ到達ノキハ其日迄尙従前ノ俸ヲ支給ス

第四條 日給ノモノ他所在勤又ハ出張中解備ノキハ其令書本人へ到達ノ日迄ヲ支給ス

十九年廳達第五十一號ヲ以テ若干字改正

第五條 解備ノモノ事務引繼ノ命ヲ受ケ事務ニ従事スルキハ其間尙従前ノ俸給ヲ支給ス

第六條 月俸ノモノ許可ヲ得テ休暇若クハ歸省旅行及私事故障(自己病氣ヲ除ク)ニ由リ上廳セサルモノ三十日以後ハ日割ヲ以テ月俸半額ヲ減ス

第七條 月俸ノモノ病氣(轉地療養トモ)ニ由リ上廳セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス

但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹タルモノハ此限ニアラス

第八條 經濟ヲ異ニスル廳へ轉勤ノモノハ前勤廳ノ事務終リタル翌日ヨリ轉勤廳ノ經費ヲ以テ支給スルモノトス

第九條 經濟ヲ異ニスル廳ヨリ月俸日給ノモノヲ借用スルキハ出發ノ日ヨリ復歸ノ日マテノ給料ハ日割ヲ以テ借用セシ廳ヨリ支給ス

第十條 増給減給ハ拜命ノ翌日ヨリ計算ス但月俸ノモノハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第十一條 公務ニヨリ旅行ニ際シ第一條ノ定日旅行日積中ニ在ルキハ其月ノ俸給ヲ繰上ケ支給スルヲ得

第十二條 日割計算ノ法ハ其月現日數ニヨルモノトス  
●廳達第二十一號 明治十九年八月三十一日 警察本部







### 第十二款 族費日當及滿年賜金

●丁第八十九號 明治十六年十月廿三日

各課署掛

官吏出張之節一里未滿ノ地ニ於テ宿泊候時ハ其地名及旅宿ノ姓名等別紙ニ明記シ旅費請求可致此旨相達候事

●丁第四十七號 明治十七年七月一日

警察本署

巡查持區内手當ノ儀ハ自今警察署及分署トモ各其持區内ノ旅行ニ限り支給候條此旨相達候事

●丁第八拾壹號 明治十七年十月廿八日

警察本署

本年十月八日丁第七拾壹號ヲ以テ巡查召募規則中俸職年限改正候ニ付テハ滿三ヶ年勤績ノモノニアラサレハ滿年賜金及免職歸國旅費支給セサル義ト相心得ヘシ此旨相達候事

但滿三ヶ年以上勤績ノモノ滿年賜金支給計算方ハ一般ノ定規ニヨル

●應達第十五號 明治十九年八月十二日

警察本部

警察部補持區内巡回日當支給區分及警察雇以下旅費支給法本年七月一日以降左ノ通定ム

但十四年丁第百二號及十五年丁第七十一號達ハ廢止ス

一 警察部及警察部補持區内巡回日當ハ根署請ノ者ニハ其警察署所管全部ヲ通シ分

十九年應達第二十七號  
十七年應達第二十七號  
規則第一條第三項ニ依リ滿三ヶ年トアルハ滿五ヶ年トナル

署請ノ者ニハ其分署所管區内ヲ限り支給スヘシ

一 警察雇以下旅費水上署請ノ者持區内巡回日當ヲ除ク支給法ハ總テ一般定規ニ依ルヘシ

一 水上警察署請ノ警察雇以下持區内巡回スルキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ里數ニ拘ハラス一泊毎ニ左ノ日當ヲ支給スヘシ

警察雇日當

金三拾錢

水夫小使等日當

金二拾五錢

### 第十三款 管内警察本分署間里程表

○本甲第四十八號 明治十九年四月九日

部署

客年本乙第七十五號別表ノ通改定候條本年四月一日ヨリ履行可致此段相達候也 (別表ヲ略ス)

○本達甲第十一號 明治十九年十一月十五日

課署

本年本甲第四十八號達中左ノ通改正及増補シ本日ヨリ施行ス(左書ヲ略ス)

### 第十四款 辨當料支給規則

○本甲第二百四號 明治十五年六月廿二日

各署

警部以下辨當料之儀本年七月一日ヨリ別紙各條ニ依リ支給致スヘク此段及通達候也

### 辨當料支給規則



十六年本甲第二十三號ヲ以テ特務巡查ノ四字ヲ追加ス

全(特務巡查)ヲ除ノ六字ヲ追加ス

十七年本甲第一號ヲ以テ徹夜ヲ夜警ト改正ス

十六年本甲第一號ヲ以テ徹夜ヲ夜警ト改正ス

第一條 内勤警部警部補全代理巡查御用掛特務巡查雇事務繁劇等ニテ退署午後八時ヲ過レハ辨當料一度金三錢五厘小者小使ハ二錢五厘ヲ給シ午後十二時ヲ過クレハ二度徹夜ニ至ル者ハ三度分ヲ給スヘシ

第二條 全上(特務巡查)ノ者宿直ハ兩度分ノ辨當料ヲ給スヘシ

但宿直ノ者事務繁劇ノ爲メ徹夜ニ至ルトキハ臨時辨當料一度三錢五厘ヲ給スヘシ

第三條 外勤警部警部補全代理巡查ヘハ夜警辨當料トシテ二度分金七錢ヲ給ス可シ

第四條 全上ノ者非番中事務繁劇等ニテ午前出署午後八時ヲ過クルカ又ハ午後出署全十二時ヲ過キテ退署スル者ハ第一條ニ依リ辨當料ヲ給ス

但人員補欠ノ爲メ出署常務ニ服スル者ハ第三條ニ全シ

第五條 巡查當務ノ者ヘハ夜警辨當料トシテ一度金三錢五厘ヲ給スヘシ

但特務巡查當務宿泊ノ節亦タ同シ

第六條 巡查事務ノ都合ニヨリ交代時限後二時間ヲ過テ退署スル者ヘハ辨當料一度金三錢五厘ヲ給スヘシ

但特務巡查ハ此限ニアラス

第七條 巡查非番ノ者事務繁劇等ニテ出署スル者ハ第四條ニ依リ辨當料一度

金三錢五厘ヲ給ス

但人員補欠ノ爲メ出署常務ニ服スル者第五條ニ全シ

第八條 出火其他非常ノ事件ニシテ退署後出署午後十二時ヲ過クレハ警部以下御用掛雇ハ辨當料一度金三錢五厘小者小使ハ全一度金二錢五厘徹夜ニ至ル者ハ各二度分ヲ給スヘシ

第九條 第八條ノ場合ニ於テ其現場ニ臨ム者モ亦全條ニヨルヘシ尤便宜現物ヲ以テ支給スルヲ得ルト雖モ辨當料ノ金額ヨリ超過スルヲ得ス

○本甲第二百六十五號 明治十五年八月十日 各署

各署諸警部以下事務繁劇等ニテ居殘午後八時ヲ過クレハ退署ノ時間及ヒ其事由トモ詳細記載シタル書面ヲ宿直警部(警部ラサ)ニ出スヘシ宿直警部ニ於テ無相違ト認ムルキハ之レニ捺印シテ翌朝署長ニ呈シ署長ノ檢印ヲ請ヒ會計主任ヘ回付スヘシ會計主任ハ月末或ハ其時々本人ノ請求書ト此書面トヲ照査シ臨時辨當料支給ノ手續ヲナス可シ此段及通達候也

○本甲第五十三號 明治十九年四月二十七日 部署

右ノ通被達候條當分ノ内警部以下小使ニ至ル迄渾テ辨當料支給セサル義ト心得ヘシ此段相達候也

無號 明治十九年四月廿七日 本廳及本廳所管ノ官署學校病院



費用節減ノ爲メ來ル五月一日ヨリ當分ノ内一般官吏其他へ給與シタル宿直及居殘辨當料支給不致候條此旨相達候事

○本達甲第九號 明治十九年九月十三日 課 署

巡查以下辨當料來ル十五日ヨリ十五年六月本甲第二百四號達ノ通支給ス  
但檢疫ニ從事スルモノハ渾テ是迄ノ通

●無號 明治十九年九月廿九日 本廳及本廳所管ノ官署府立學校病院

本年四月廿七日無號ヲ以官吏其他へ宿直及居殘辨當料支給セサル旨相達置候處來ル十月一日ヨリ當分ノ内備員以下ニ限給與ス

但給料月給日給拾貳圓以上ノ雇員ハ給與ノ限ニアラス

第十五款 護送及留置費

○本甲第百十四號 明治十五年四月十八日 各 署

當府及ヒ他府縣ヨリ集治監へ押送ノ已決囚警察署ニ於テ傳遞ニ應シタル節護送費ノ儀ハ別紙書式ニ準シ一囚毎ニ區分シ請求可有之此段相達候也

集治監へ送付囚人護送費申請書

何年何月何日何時(兵庫)縣ヨリ傳遞着  
何年何月何日何時(京都)府へ送付ス

刑名懲役終身 華士族平民 何國何郡何村何ノ某

(強盜犯) 年 齡

十九年十月二日  
但書追加

(廣嶋縣)ヨリ(宮城)集治監へ押送ノ者

一金何拾錢 (大坂)ヨリ(京都)迄瀛車賃

一金何錢 書賄壹度代

右何々 何、、、

○本甲第百三十三號 明治十七年十二月二日 警察署水ト署ヲ除ク

各府縣ヨリ兵庫假留監へ押送囚人諸費操替金之義自今本府監獄本署へ直チニ戻入方照會スヘシ此段及通達候也

○本甲第三十一號 明治十八年三月廿一日 各 部第二部第五部ヲ除ク 警 察 署

軍人軍屬ノ罪犯護送中ノ費用(脱走ノ軍人軍屬ヲ除ク)ハ陸軍省ヨリ別途下渡ノ義本年三月陸警第二號ヲ以テ内務卿ヨリ御達ノ旨モ有之ニ付該費用ヲ要スル片ハ操換支拂置明治十五年四月本甲第百十四號通達集治監へ押送囚人費請求書式ニ準シ其都度第四部へ申請スヘシ此段及通達候也

○本乙第五十九號 明治十八年七月九日 曾根崎警察署

明治十七年九月本乙第六十四號通達囚人護送ニ係ル諸費ハ本年七月一日以後其署警察費定額内ヲ以テ支辨スヘシ尤巡查并ニ繩夫ノ旅費ハ一般定規ニヨリ



支給スル義ト心得ヘシ此段及通達候也

○本甲第三百三十七號 明治十五年十月二十四日 各署

違警罪ノ者ニシテ拘留ノ刑ニ處シ其地警察留置場へ拘留スル費用ハ一時各署  
經費金ヲ以テ操替置キ每一ヶ月分取纏メ前月分翌月三日限各署差立監獄本署  
へ請求スヘシ

但分署ヨリ警察署へ送致スル費用モ亦本文ニ同シ

○本甲第四百四十七號 明治十七年十二月十七日 第三部第四部警察署

明治十五年十二月本甲第四百一號通達第二項ニヨリ警察署留置場ニ於テ拘留  
並收監セシ被告人ニ係ル費用(膳料 藥價)等ハ以來每一ヶ月分取纏監獄本署へ請求ス  
ノシ此段及通達候也

本甲四百一號通  
達ハ消滅ス

### 第十六款 各署修繕申立書式

○本甲第貳百五拾八號 明治十五年十一月十日 各署

各署修繕箇所申出方之義是迄區々相成居取扱上差支候條爾後別紙書式ニ據リ  
一廉毎ニ可申出此段及通達候也

但市街各署營繕工費金拾圓以上ト認ムルモノハ目論見書ヲ添フルニ不及工  
事ヲ要スル箇所ノミ可申出候

(書式)

何所修繕之義ニ付伺

(豫算殘金何程)此分朱書スヘシ

一金何程

(朱)

但何署何處修繕

右者何署何所(漸々或ハ何々爲メ)破損致候ニ付(朱)何々々々々々其理由ヲ詳記ス修  
繕致度別紙見積書并ニ圖面相添此段相伺候也

何警察署長

年月日

警部 何ノ誰 印

大阪府知事姓名殿

某警察署何所彼處修繕見積書

一此仕様何、(總テ木品瓦石ヲ初メ其他諸品ノ遣方及工作仕様ノ事ヲ逐  
一明細ニ記載ス)右工事向入念ニ請負候事

右入費

一金何圓何拾錢也

内譯

(是ハ別紙需用品明細書之雛形ニ依リ記入ス)

(朱) (需用品) (朱) (品目寸銘)

朱

(員)

數

(朱) (壹個ノ價)

(朱) (通)

(計)



柱	檜	杉	全	全	長	長	長	龍山延石	足代物損料	大工手間	手傳手間	屋根葺手間
何間何寸角	何間何寸	何間何寸	何拾本	何拾本	何百何拾本	何拾挺	何拾挺	正何寸 何寸	一	何十人	何拾人	何拾人
本何拾錢	本何拾錢	本何拾錢	何拾錢	何拾錢	何百何拾錢	何拾錢	何拾錢	何拾錢	何拾錢	何十錢	何拾錢	何拾錢
何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢	何圓何拾錢

右之通稱座候也

何國何郡區何町村  
大工職  
何ノ某印

何警察署御中

### 第十七款 巡查派出所費區別

○乙第七十號 明治十五年六月卅日

市中各署水上署  
ヲ除ク

一來ル七月一日ヨリ從前協議費ヲ以テ設置セシ巡查派出所備付品消耗品ハ警察費ヨリ支辨相成候事

但別途巡查ノ派出所ハ此限ニアラス

右派出所屋根燈石炭油并點消方ハ本街々燈點消請負人へ委任相成候事  
右派出所之營繕ニ屬スルモノハ從來ノ通協議費ノ事  
爲心得及通達候也

### 第十八款 巡查積金取扱手續

●丁第七十六號 明治十八年九月三日 (△ハ朱) 警察本署

巡查積金取扱手續左ノ通制定シ本年丁第四十四號達第三十條刪除候條此旨相達候事

#### 巡查積金取扱手續

第一條 巡查積金ハ内務省乙第九十三號警部巡查給與規則第八條ニ據リ每人月俸ノ内ヨリ金三十錢ツ、積立ヘシ

但其月十六日後新任ノ者ハ翌月ヨリ積立ヘシ

第二條 積金ハ口別簿ヲ設ケ其金額ヲ明瞭ナラシムヘシ



第三條 積金ハ十八年第十三號公布全年太政官第二十四號達及全年大藏省第

八十八號告示ニ據リ豫金局へ定期通常ノ二種ニ分テ預ケ入ルヘシ

第四條 定期預ケ金ハ六ヶ月据置キ満期ニ至リ精算ヲナシ更ニ預ケ入ルモノ

ヲ云フ

第五條 通常預金ハ時々預ケ入或ハ拂出スニ辨ナルモノヲ云フ

第六條 通常預金ハ六ヶ月ニ至リ拂戻ヲ請求シ更ニ定期預ケニ組入ルヘシ

第七條 各署ニ於テハ積金徴收後三日限リ別紙第一號ヨリ第四號マテノ書式

ニ據リ本署第四部へ送付スヘシ

第八條 本署第四部ニ於テハ積金ヲ取纏メ國庫金取扱所へ送付スヘシ

第九條 巡查轉署ノ時積金ハ第五號ノ書式ニ據リ通知シ受拂ヲナシタル兩署

ハ第六號第七號書式ニ據リ本署第四部へ報告スヘシ

第十條 巡查轉任父ハ免職シタル時積金ハ他ノ金種ヨリ操替置キ送付スヘキ

積金ノ内ヨリ戻入ヲナシ尙賠償金アルキハ之ヲ扣除シ其殘金ハ別紙第四

號書式ニ準シ本署第四部へ送付スヘシ

第十一條 預ケ金ヨリ生スル利子ハ教育費ニ充用シ各人ニ下附セサルモノト

ス

第十二條 現金出納ノ順序ハ總テ會計定則ニ據ルヘシ

第一號 △積金増減ナキ書式

何月分巡查積金送付書

△前月金六拾圓

一金六拾圓 巡查貳百人積金

右及送付候也

年月日

何

署

警察本署第四部御中

第二號 △増加ノ書式

何月分巡查積金送付書

△前月金六拾圓

一金六拾圓六拾錢 巡查貳百貳人積金

內金六拾錢

増加

內

金三拾錢

何某何署ヨリ轉入

金三拾錢

何某拜命

右及送付候也

年月日

何

署



警察本署第四部御中

第三號 △減額ノ書式

何月分巡査積金送付書

△前月金六拾圓

一金五拾壹圓

巡査百七拾八積金

外金九圓

減少

内

金三圓

何某外何人何署へ轉出

金六圓

何某外何人何署へ轉出

右及送付候也

年月日

何

署

警察本署第四部御中

第四號 △増減アル書式

何月分巡査積金送付書

△前月金六拾圓

一五拾六圓四拾錢

巡査二百三人積金

内金六圓

増加

但何某外何人何署ヨリ轉入

外金六圓六拾錢

減少

内

金九拾錢

何某外何人何署へ轉出

金壹圓貳拾錢

全上何署へ轉出

金三圓

何某免職ニ付下付

金壹圓五拾錢

何某賠償金扣除ス

差引

金六拾錢減

右及送付候也

年月日

何

署

警察本署第四部御中

第五號

巡査積金引繼書

一金何程

但巡査何某何年何月ヨリ本月マテ何ヶ月分積金

右ハ何月何日本人貴署詰被命タルニ付巡査積金書面ヲ以テ及引繼候也



年月日

何署御中

何

署

第六號

巡查積金引繼報告書

一金何程

但巡查何某積金

右ハ今般何署へ轉出候ニ付積金引繼候間此段及報告候也

年月日

何

署

警察本署第四部御中

第七號

巡查積金請入報告書

一金何程

但巡查何某積金

右ハ今般何署ヨリ轉入ニ付積金受入候間此段及報告候也

年月日

何

署

警察本署第四部御中

第十九款 違警罪科料金及沒收品處分手續

○本甲第百八十九號

明治十六年十月廿二日

各署

今般會計検査院長ヨリ收支證書調理順序被達候ニ付テハ各署ニ於テ違警罪科料金其他沒收品處分スルキハ左ノ手續ニヨリ本月一日後別紙雛形ノ通納證書ヲ徵シ從前ノ通仕譯書ヲ添へ本署第四部へ送付可致此段及通達候也

一 違警罪科料并官沒金及犯罪ニ供シタル沒收品公賣代賊置捨金錢及物品處分濟公賣代價等納證書ヲ徵スヘシ

一 收入納證書ハ正當納金者ノ納證書ニ限ルヘシ

但事實證書ヲ徵スル能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル徵收者ノ收入證書ヲ以テ代用スヘシ

一 沒收物品ヲ公賣ニ付スルキハ買受人納證書ニ落札受書ヲ添付セシムヘシ

一 沒收金ハ其徵收官吏ヨリ納書ヲ徵スヘシ但該納書ハ第一ノ書式ニ準ス用紙半紙

納證

何府縣何郡區何町村何  
誰(科料金又タハ官沒金)

一金何程  
右相納候也

右

年月日

何ノ誰

官沒品公賣代納證書モ準之品目及代價ヲ内譯詳細記載スヘシ

十八年本甲第五  
十一號ヲ以テ沒  
收金云々ノ一  
項ヲ追加ス



用紙半紙

納證

一金何程

右相納候也

何府縣何郡區何町村何  
誰(科料金又タハ官没金)

年月日

官姓名

是ハ本人(何々ノ事故)ニ付證書差出シ難キニヨリ之レニ代ル

○本甲第九十四號 明治十七年七月卅日

警察署

違警罪科料金其他沒收品取扱手續客年十月本甲第八十九號ヲ以テ及通達置候處實際取扱上疑團之廉左ノ通司法卿伺御指令相成候條右ニ準シ取扱不苦此段及通達候也

第一條 違警罪公判ニ付治罪法中之カ代人ヲ許スノ法則ニシテ科料金納證書其代人ヨリ差出スモ可然哉

第二條 違警罪犯人科料金所持セサル趣申立ルルハ即日若クハ翌日之ヲ納ムヘキ旨申渡シ放遣セシ後代人ヲシテ納證書差出スモ妨ケ無之哉

第三條 違警罪犯人ヲ處斷科料金ヲ徴スルニ際シ無筆印章所持セサルモノハ徴收官吏ノ納證書ニ換用スト雖モ自書スヘキモノニシテ印章所持セザルモノ、如ハキ納書ニ摺印セシムルモ苦シカラサル義ニ候哉

件右々至急御指揮相成度此段相伺候也

指令(明治十七年七月廿二日)

書面之趣第一條第二條第三條共同之通

第二章

第一款 巡查服具支給規則

警察本署

●丁第三十五號 明治十八年五月廿五日

明治十四年十二月丁第百六十四號達巡查服具支給規則左ノ通改正候條來ル六月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

巡查服具支給規則

第一條 巡查ニハ第二條ニ掲載スル服具ヲ給與シ第三條以下ノ區別ニ從ヒ之ヲ交換又ハ徴收付與スヘシ

第二條 服具及其保存期限左ノ如シ

但期限計算方ハ調製月ヨリ算スルト雖モ滿期ハ其月ノ末日トス

一 外套 保存期限二ケ年

一 肩掛 全

一 帽雨覆 全

一 冬服 全 一ケ年



一 帽日覆	全	全
一 長靴	全	全
一 夏服	全	六ヶ月
但一時ニ貳着ヲ給與シ一周年度ヲ期トス		
一 短靴	全	全
一 帽	全	全
一 肌着袴下	全	四ヶ月
一 靴下	全	半ヶ月
一 洋劔	無期限	
一 サンチヨロ	全	
一 洋劔腕貫	全	
一 外套縮革	全	
一 手帖	全	
一 捕繩	全	
一 呼子笛	全	
一 帽章	全	
第三條	長短靴肌着袴下靴下等代價給與ノ分ハ別ニ定ムル成規ニヨリ取扱フ	

十五年丁第五十  
四號ヲ以監督ノ  
名稱ヲ因シ外勤  
ヲ置

ヘシ

第四條 職務ノ爲メ服具ヲ毀損及ヒ遺失セシキハ五日以内ニ事由ヲ詳記シタル書面ヲ以テ交換又ハ新ニ給與ノヲテ所属署長(分署長ノ者ハ其分署長ヲ經由シ)ヘ申出スヘシ

但無期限給與品使用ニ難堪キハ交換又ハ新ニ給與スヘシ

第五條 當府奉職十二ヶ月ニ至ラスシテ退職セシキハ給與服具ハ都テ返納スヘシ

第六條 給與服具保存期限ヲ經過セシ際勤續十二ヶ月未滿ノ者ハ返納スヘシ

第七條 十二ヶ月以上勤續セシ者ハ帽章手帖捕繩呼子笛洋劔サンチヨロ洋劔腕貫外套縮革ノ八品ヲ除クノ外保存期限ヲ經過セシ服具ニ限り支給スヘシ

第八條 第四條ノ場合ニアリテ新ニ給與シタル服具ト雖モ其期限計算ハ第二條但書ニ依ル

第二款 逃走巡查官給品携帶ノ處分并轉免巡查ノ服具自儘ニ交換不相成事及病毒汚染ノ官服燒却ノ事

○明治十五年三月一日 市街各署

近來官給品携帶逃走候巡查往々有之其時々單ニ監督巡查ノ上申書等相副剽奪處分ノ義具申相成來候處右ハ處分上差支不尠候條爾來右ノ所業者有之節ハ一面原籍官衙ヘ取調方照會シ置キ一面ハ官給品携帶目錄(殘區分共併テ記載スヘシ)相添處分

第十一編會計 逃走巡查官給品携帶ノ處分并轉免巡查ノ服 五十四  
具自儘ニ交換不相成事及病毒汚染ノ官服燒却ノ事



方上申可有之此段相達候也

○本甲第七拾四號 明治十五年三月廿九日

各警察署

轉免巡查服具返納ノ際在職巡查之者ト自儘ニ交換致候趣有之哉ニ相聞ヘ右ハ保存期限區別ヲ紊亂シ不都合不勘候條爾后可致注意様掛リノ者ヘ可被申付此段相達候也

○本達甲第四號 明治十九年八月三十日

課署

巡查下痢症ニ罹リ或ハ他ノ病源ニ因テ虎列拉病ニ變症セシモノ其發病現時着  
用シ亦ハ病毒汚染ノ官服等ハ直チニ燒却ノ上其旨第三課ヘ通知スヘシ

第三款 給與品代料支給取扱順序

●丁第三十七號 明治十八年六月五日

警察本署

客年六月丁第四十三號ヲ以テ相達置候巡查給與品代價左ノ通改正候條本年七月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

長靴 壹足 代金壹圓九拾八錢

短靴 壹足 代金壹圓貳拾錢

肌着袴下壹足 代金三拾貳錢

靴下 壹足 代金三錢

○本甲第四十五號 明治十九年三月廿九日

各部二部ヲ警察署

客年三月本甲第三十三號達給與品代料支給取扱順序左之通改正候條本年四月一日ヨリ施行スヘシ此段相達候也

但本年六月迄支給セシ長短靴料殘額ハ此規則實施ノ當日返納セシムヘシ

巡查給與品代料支給順序

第一條 給與品代料ハ左ノ期日ヲ以テ一般支給ノ定規トス

長靴料 四月一日

短靴料 四月一日

肌着袴下料 四月一日

靴下料 每月十七日

第二條 支給ノ定日後新任及轉任免職死亡等ノ者ハ保存期限ニ依リ其時々月割ヲ以テ支給又ハ返納スヘシ

但靴下料ハ其月十五日前轉任免職及死亡ノ者又ハ十六日後新任ノ者ニ各壹足分ヲ支給スルモノトス

第三條 轉署ノ者ハ返納スルニ及ハズト雖モ保存期限內轉任免職又ハ死亡セシキハ第二條ノ手續ニ依リ在職ノ署ニ返納スヘシ

第四款 被服屬具受証

○本甲第六十一號 明治十八年六月十一日

各部 警察署











外	套	縮	革	全	貳	錢	貳	厘
手	帳	全	全	三	錢	六	厘	
呼	子	全	全	三	錢	五	厘	
捕	繩	全	全	三	錢	五	厘	
帽	章	全	全	四	錢			

右全價ヲ賠償セシムルモノトス

記

一金何圓何拾錢

內

金何程

巡査何ノ誰給與冬服上衣  
紛失賠償金月何ケ月分

金何程

巡査何ノ誰給與呼子笛  
遺失賠償金

金何程

巡査何ノ誰外套修補  
賠償金

右者明治何年何月分巡査賠償金納付候也

(此年月ハ金額送納  
ノ年月ヲ記スヘシ)

何警察署長

官氏名印

年月日  
本署第四部宛

第六款 官給品点檢及毀損申出期限

○本甲第四十九號

明治十五年二月廿二日

各署

十六年本甲第四  
十號ヲ以テ但書  
ヲ改正ス

巡査官給品物点檢月々一回以上必ス施行可致此段相達候也

但市署ハ上席外勤郡根署ハ警部同補署長ヲ分署ハ分署長ニ於テ点檢スヘシ

時期ニヨリ尙ホ根署長モ点檢スルコトアルヘシ

○本甲第二十四號

明治十七年二月廿一日

警察署

各巡査ノ中貸與ノ官物ヲ毀損セシ者處分方數十日ヲ經テ申出ル向往々有之調  
理上不都合不該候條自今官品ヲ誤毀セシ者ハ其翌日迄ニ本人ヨリ所屬長ニ申  
出サセ署長ハ爾後一周間以內ニ處分方申出ツヘシ此段及通達候也

第七款 貸與品返納仕譯書

○本甲第二百四十二號

明治十五年七月十四日

各署

巡査貸與品返納之節ハ是マテ物品ニ被服屬具受證ノミ相添ヘ返納相成候署モ  
有之處爾后被服受證ニ必ス別紙雛形ノ仕譯書相添返納候様可取計此段及通達  
候也

巡査貸與品返納仕譯書

記

一冬服何拾何組(取扱主任ノ印)(朱)

一夏服何拾何組

一何々 何個



一何々  
右之通及返納候也

年月日

何警察署印 朱

### 第八款 水夫給與品及保存期限

●丁第八十七號 明治十六年十月十五日 警察本署

水上警察署水夫服具保存期限別紙ノ通相定候條此旨相達候事

水夫服具保存期限

十八年本乙第十  
五號ヲ以肌着并  
足袋ノ期限ヲ改  
正ス

品目 保存期限

冬服 一ケ年

夏服 六ケ月

帽子 一ケ年

肌着 六ケ月

合羽 一ケ年

紺足袋 四ケ月

○本乙第五十六號 明治十七年七月廿四日 水上警察署

水夫給與品ノ内肌着足袋ノ二品代價ヲ以テ支給方左ノ通被達候條此段及通達候也

丁第五十四號 明治十七年七月廿一日

警察本署

水夫給與品ノ内肌着足袋ノ二品左ノ代價ヲ以テ支給候條本年七月ヨリ施行可致此旨相達候事

壹ケ月價額

肌着料 金五錢

足袋料 金三錢七厘

十八年丁第四十  
一號ヲ以價額ヲ  
改正ス

○本乙六十號 明治十七年八月九日

水上警察署

水夫給與肌着足袋ノ二品代價渡ノ義本乙第五十六號ヲ以テ通達置候ニ付テハ  
毎月一日ヲ給與定日トシ爾來解雇スルト雖モ返納セシムルニ不及雇入ル者ニ  
ハ更ニ給與スヘシ此段及通達候也



大阪府警察規程終

大阪府警務規程附錄甲編

○公文式

○勅令第一號 明治十九年二月廿四日  
朕法律命令ノ格式ヲ制定スルノ必要ヲ認メ茲ニ公文式ヲ裁可シ之ヲ公布セシ  
云

公文式

第一 法律命令

第一條 法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス

法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル

第二條 法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ

總テ内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ

第三條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ニ副署シ年月日ヲ記

入ス其各省主任ノ事務ニ属スルモノハ内閣總理大臣及主任大臣之ヲ副署ス

第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特

別ノ委員ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ

省令ヲ發スルコトヲ得

第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス



第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス

第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス

第八條 各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳處務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム

第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル

第二 布告

第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル

第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達セタル翌日ヨリ起算ス

島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス

第三 印璽

第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス

國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス

第十五條 法律命令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス

第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス

第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

○地方官官制

○勅令第五十四號 明治十九年九月十二日

朕地方官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方官官制

府 縣

第一條 各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

知事

書記官

收稅長



屬

收稅屬

典獄

副典獄

書記

看守長

看守副長

第二條 知事ハ一人勅任二等又ハ奏任一等トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政及警察ノ事務ヲ總理ス但東京府知事ハ勅任一等ニ陞ルコトヲ得

第三條 知事ハ部内ノ行政及警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ハ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第四條 府縣令ハ官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ一般ニ公布シタル後其効力アルモノトス

第五條 府縣令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラル、コトアルヘシ

第六條 知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條 知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ鎮臺若クハ分營ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第九條 知事ハ各郡區内警察分署ノ配置分合ヲ定ム

第十條 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十一條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 知事ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ經テ技術官官等俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得但地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ノ經費内ニ於テスルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經雇員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得



- 第十四條 書記官ハ二人奏任二等以下トス知事ノ命ヲ承ケ部長トナリ其所部ノ事務ヲ整理ス知事事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス
- 第十五條 收稅長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ命ヲ承ケ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ庶務ニ從事ス
- 第十七條 收稅屬ハ判任トス收稅部ニ屬シ收稅長ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ從事ス
- 第十八條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス知事又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス
- 第十九條 副典獄ハ判任三等乃至五等トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
- 第二十條 書記ハ判任六等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第二十一條 看守長ハ判任五等乃至七等トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ看守ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ觀察ス
- 第二十二條 看守副長ハ判任八等以下トス看守長ノ職掌ヲ佐ク
- 第二十三條 看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第二十四條 府縣廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲ニ第一部第二部ヲ置キ部中便宜

課ヲ設ケ書記官ヲシテ各一部ノ長タラシム

第一部

- 一、府縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事項
- 二、地方稅區町村費備荒儲蓄ニ關スル事項
- 三、外國人ニ關スル事故
- 四、文書往復ニ關スル事項及官印府縣印ヲ看守スル事
- 五、農工商務ニ關スル事項
- 六、他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

- 一、土木ニ關スル事項
- 二、兵事ニ關スル事項
- 三、學務ニ關スル事項
- 四、監獄ニ關スル事項
- 五、衛生ニ關スル事項
- 六、會計及公債証書ニ關スル事項
- 第二十五條 前條ノ外府縣廳中ニ收稅部ヲ置キ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル一切ノ事務ヲ分掌セシム部中課ヲ設クルハ第二十四條ノ例ニ依ル



第二十六條 前條ニ指定スル外臨時ノ事務ハ知事ニ於テ便宜其主掌ヲ定ムルコトヲ得

警察官

第二十七條 各府縣ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長

警部

警部補

第二十八條 警部長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ職務ヲ掌ル

一、管内高等警察ノ事

二、管内ノ警察ニ關スル一切ノ事務及警察ノ會計ニ關スル事務ヲ整理スル事

三、管内各部ノ警察官ヲ指揮監督シ非常急變ノ場合ニ於テ管内ノ警察官ヲ統一指揮スル事

四、管内各警察署及各警察分署ニ必要ノ警察官ヲ分配スル事

第二十九條 警部ハ判任一等乃至七等警部補ハ判任八等以下トス警部長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第三十條 各府縣ニ警察本部ヲ置キ前第二十四條ニ指定スルノ外府縣廳中ノ一部トシ警部長ヲシテ其長ニ充テ部中課ヲ設ケ前第二十八條ノ事務ヲ掌理セシム

第三十一條 府縣内各郡區ニ警察署一箇所ヲ置キ警察署ノ下其部内ニ於テ警察分署ヲ配置シ警察署ハ警部ヲ以テ其長ニ充テ警察分署ハ便宜警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充テ部内ノ高等警察行政警察及司法警察ヲ掌リ法律命令ノ履行ヲ監督ス其項目左ノ如シ

一、諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項  
二、演藝遊觀場遊戯場遊憩場徽章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項

三、船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事項

四、人命傷傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難破船遺流失物埋藏物ニ關スル事項

五、傳染病豫防消毒檢疫痘種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事項

六、諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付ス



ル等ニ關スル事項

七、失踪者瘋癲者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事項

八、政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關スル事項

第三十二條 各警察官ハ其職權ニ依リ又ハ上官ノ命ニ依リ若クハ部長收稅長郡區長戸長及其他行政官ノ請求ニ應シ又司法警察ニ關シテハ檢察官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ執行スヘシ

第三十三條 警察官ハ總テノ場合ニ於テ行政官又ハ司法官ノ自ラ其責任ニ當リテ警察官ニ請求ヲ爲ストキハ警察官ハ其請求ニ應スルノ義務アルモノトス

第三十四條 他府縣ヨリ警察ノ事務ニ關スル照會ハ必ス知事ヲ經ヘシ但急施ヲ要スル場合ニ於テハ警部長又ハ其事ノ執行ヲ要スル地ノ警察官ニ宛直ニ照會スルコトヲ得

第三十五條 巡查ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十六條 東京府下ノ警察及監獄ニ關スル事務ハ勅令第四十二號警視廳官制ニ依リ本令中ノ條項ニ指定スル限ニアラス

郡區

第三十七條 每郡若クハ數郡ニ郡長一人每區ニ區長一人及書記若干人ヲ置ク

第三十八條 郡區長ハ委任四等以下書記ハ判任三等以下トス

第三十九條 郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ

行政事務ヲ掌理ス

第四十條 郡區長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行シテ後知事ニ報告スルヲ得

第四十一條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ戸長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之ヲ監督ス

第四十二條 郡區長ハ郡區書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十三條 郡區長ハ法律命令若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付部内一般ニ告示スルコトヲ得

第四十四條 郡區長ハ部内ノ行政處分ニ關シ警察官ニ請求シテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

島地

第四十五條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス

第四十六條 長崎縣鹿兒島縣其他今後指定セラレヘキ府縣ニ特ニ島司ヲ置キ部内行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルコトヲ得

第四十七條 嶋司ハ委任三等以下トス



○行政警察規則

○達第貳拾九號 明治八年三月七日

府 縣 東京府

八年達第百八十二号ヲ以テ府縣巡卒ノ稱ヲ巡査ト改正ス

行政警察規則別冊ノ通相定候條本年四月一日ヨリ施行可致就テハ從前捕亡吏取締組番人等ノ名稱ヲ廢シ邏卒ト改稱可致此旨相達候事  
但捕亡費ヲ改テ警察費ト稱シ定額ハ先從前ノ通ニ候條出張所并吏員配置ノ儀ハ適宜タルヘク尤差向規則ノ通施行難致事情有之向ハ其段内務省へ可申出

行政警察規則

第一章 警察職務之事

- 第一條 行政警察ノ概意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ
- 第二條 各府 東京府 縣長官其事務ヲ提掌シ警部ヲシテ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡査ヲシテ各部ニ分派シ巡邏巡察セシム
- 第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス
  - 第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事
  - 第二 健康ヲ看護スル事
  - 第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事
  - 第四 國法ヲ犯サメトスル者ヲ隱密中ニ探索警防スル事

八年達第百四十七号第百八十三号第百六号ニテ改正

第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルハ其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フハ檢事章程并司法警察規則ニ照スヘシ

第五條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發ク可ラス且己ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ愆ル可ラス

第二章 警部勤務ノ事

第一條 各出張所ニ派出セル警部ハ時々本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要スヘシ

第二條 凡ソ布告布達ハ其旨趣ヲ巡査ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ  
第三條 時々區内ヲ巡視シ其景况并ニ巡査ノ勤惰正否ヲ察スヘシ區内ノ人員戶數職業等ハ成丈ケ詳知スルヲ要スヘシ

第四條 區内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告スヘシ若シ非常急緊ノ事件アレハ速ニ報知スヘシ時機ニ因リ直ニ警保頭ニ報告スルヲ得ヘシ

第五條 凡ソ警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報知若クハ照會スルヲ得ヘシ

第六條 達又ハ訊問等ノコアルニ付テハ勅奏官及ヒ華族并有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出スヘシ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出ストヲ得ヘシ



第七條 違警犯人ハ其犯狀ヲ按シ違警罪目ニヨリ處斷シテ後長官ニ具申シ其疑按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ

第三章 巡查勤方之事

第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナスヘキ事

第二條 持区内ノ居民并道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フキハ何時ニテモ乞ニ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取計フヘシ

第三條 老幼廢疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ

第四條 持区内ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長戸長ノ宅等盡ク詳知スヘシ

第五條 持区内ノ戸口男女老幼及其職業平生ノ人トナリニ至ル迄ヲ注意シ若シ無産體之者集合スルカ又ハ怪シキ者ト認ルキハ常ニ注目シテ其舉動ヲ察スヘシ

第六條 持区内ヘ他ヨリ移リ來ル者アラハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知スヘシ但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ當人ノ覺知セサル様隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若シ己ムヲ得

サルコアルキハ自ラ行テ尋問スヘシ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ警部ニ報知スヘシ

第八條 巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ逐一手帖ニ記シ警部ヘ報知スヘシ  
第九條 非番タリモ合圖アルカ又ハ臨時呼出テ受レハ早速其場ニ駆付ヘク平常其心掛アルヲ要ス

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ルキハ速ニ之ヲ取除カシムヘシ

第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ淤塞及不潔物アレハ之ヲ戸長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 官舎橋梁道路其他公有ノ建造物破損スルキハ警部ニ報知スヘシ

第十三條 行人ニ道路其他ノ事ヲ尋問セラル、キハ丁寧ニ教示スヘシ

第十四條 稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戸長ニ預ケ之ヲ警部ヘ報知スヘシ若シ其居所分明ニシテ其持区内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ其地ノ區戸長ニ掛合送致ノ手續ヲナスヘシ

第十五條 芝居其他群集ノ所ニハ出張シテ乱雜ヲ防制スヘシ

第十六條 放レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ置キ其主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサルハ警部ノ指圖ヲ受ヘシ



第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第十八條 路上狂瀨人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナスヘシ

第二十條 道路河渠ニ死屍アルトキハ其摸樣ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受クヘシ

第二十一條 獸畜ノ死骸アルトキハ速ニ戸長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ

第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル店ニ價造腐敗ノ品之アルヤヲ常ニ檢査スヘシ

第二十三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラスヘシ

第二十四條 怪キ者ヲ見認ルルハ取糺シテ様子ニ依リ持區内出張所ニ連行或ハ警部ニ密報シ差圖ヲ受クヘシ倉卒ノ取計アル可ラス

第二十五條 失火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燒失ニ罹ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人己ニ集ルニ至レハ勉テ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第二十六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戸長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ

第四章 巡查心得之事

第一條 專ラ行儀作法ヲ正シク威權ケ間敷儀之ナクシテ區民ノ侮慢ヲ受ケサル様可心掛事

第二條 法律規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決シテ職外ノ事ヲ議スヘカラサル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常ニ謙和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ニ怠ラサル様互ニ獎勵スヘキ事

第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事

第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛情偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤後日ニ至リ前言ヲ翻改スル儀無之様可心掛事

第六條 巡邏中道路行人并營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心掛事

第七條 往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間敷事

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ狎レ々敷儀決シテ有之間敷事



第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 持区内ニテ金譚等頼入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ議決シテ有之間敷事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ハシ又ハ婦女ヘ對シ戯ケ間敷儀等決シテ有之間敷事

第十二條 機密ノ筋ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他言致間敷事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間敷若シ強テ相頼候者アラハ警部ニ具申スヘキ事

第十四條 官ヨリ相渡サレタル得物ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡サレタル品ハ大切ニ取扱フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得猥リニ人ヲ打擲致間敷候勿論兇暴ハアリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲哂スルコトアリト雖モ必ス耻辱ト思フヘカラス能ク忍耐シテ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯ハシ争鬪ケ間敷儀致間敷事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ謝物トシテ金銀物品ヲ受ルコト有ル可ラサル事(十五年第四十四号達行官吏服務紀律ノ發布ニ依リ消滅ス)

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜譚スヘカラサル事

第十九條 毎朝衣服冠物其他器械ヲ検査シ常ニ見苦シカラサル様注意スヘキ事

第二十條 「屯所」ハ毎朝清潔ニ掃除スヘキ事

○達第四拾四號 明治十五年七月廿七日 官省院廳府縣

行政官吏服務紀律左ノ通相定候條此旨相達候事

第一條 凡ソ官吏ハ法律及職制章程ニ從ヒ各其職ヲ盡スヘシ

第二條 凡ソ官吏ハ太政大臣又ハ本屬長官ヨリ下ス所ノ達示ヲ遵守スヘシ

第三條 所屬官ハ事ヲ本屬長官ニ受ケ其命ニ順ヒ職務ヲ執行スヘシ

第四條 凡ソ官吏ハ職務ノ内外ヲ論セス廉耻ヲ勵マスコトヲ務ムヘシ

第五條 官吏官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ得ス其職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同様タルヘシ

第六條 官吏本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ論セス本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス



第七條 官吏本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス

第八條 官吏他人ノ請托ヲ受ケ私ニ徇ヒ公ヲ乱ルコトヲ得ス

第九條 官吏本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職役ヲ離ル、コトヲ得ス及事ニ托シ疾ヲ引キ職事ヲ曠廢スルコトヲ得ス

第十條 官吏前ノ各條ニ違ヒ顯狀アル者ハ本屬長官其輕重ニ從ヒ旨ヲ諭シ職ヲ辭セシメ又ハ懲戒例ニ依リ處分スヘシ其功過相補フヲ以テ處分ヲ宥恕スヘシト認ムル者ハ本屬長官其情狀ヲ具シ太政大臣ニ上申シテ量定ヲ請フヘシ

第十一條 長官ハ各其所屬官ヲ檢察スルノ務ニ任スヘシ

第十二條 臨時巡察使ヲ派出シテ官吏ノ治績及功過ヲ檢察シ狀ヲ具シテ直チニ太政大臣ニ上申セシムヘシ

○太政官 號外 明治十五年七月廿七日

官省院廳府縣

今般第四十四號ヲ以テ行政官吏服務紀律相定候ニ付テハ心得ノ爲メ別紙説明書下付候條其旨趣貫徹候様注意可致此旨内達候事

官吏服務紀律説明

刑法ノ外ニ紀律アルハ風紀ヲ肅シ節制ヲ嚴ニスル所以ナリ行政官吏ハ政府ノ

機關ニシテ治化ノ本源タリ宜シク特別ノ紀律アリテ以テ精神ヲ維持シ義務ヲ嚴明ニセサルヘカラス紀律ノ重キ者ハ一ニ曰法ヲ守ルニ二曰順從三ニ曰廉耻四ニ曰慎密五ニ曰清白六ニ曰公正七ニ曰勤勉

第一條凡ソ大小ノ官吏奉シテ以テ準繩尺度トナス所ノ者第一法律第二職制章程ノミ若シ法律ト職制章程トナ以テ一定ノ準ト爲サ、レハ官事百端其局ニ當ル者各意ヲ以テ左右スルトキハ將ニ其弊ニ堪ヘサラントス故ニ其職ヲ行フニ於テ法律ニ違ヒ若クハ職制章程ニ違ヒ威權ヲ弄シ弊端ヲ作シ又ハ權限ヲ越ヘ職事ヲ愆マル者ハ重キ者ハ刑法ニ條アリ輕キ者ハ懲戒加フルヲアリ而シテ其人ニ損害ヲ加フルニ至テハ賠償ノ責ヲ免レサラントス

第二條ハ現行ノ達内諭内達及將來ニ行フ所ノ達示ヲ兼テ稱スルナリ現行ノ達ハ即チ八年四月廿三日官吏商業ヲ營ムルヲ禁スルノ達十四年五月六日官吏商業株主タルコトヲ禁スルノ達ノ類是ナリ

第三條ハ順從ヲ示スナリ本屬長官ノ所屬官ニ於ケルハ手ノ指ヲ使フ如ク遞次ニ聯申シテ精神始メテ通ス故ニ所屬官タル者其職ヲ行フニ當テ長官ノ命ニ順ヒ專其指示スル所ニ依ルヘシ蓋シ人心同カラス意見各異ナリ若シ人々各其是トスル所ヲ行ハシメハ機關澁滯シテ事務壅塞シ空議日チ曠シクシテ終ニ成功ナキニ歸セントス若シ所屬長官ノ處分又ハ指令ヲ以テ不法非理ナリ



ト思惟スルトキハ敬禮ヲ失フコト無ク及遲滯シテ事ニ害アルニ至ルコト無ク意見ヲ具陳シテ長官ノ採用ヲ仰キ諄々忠告シテ諱マサルヘシ若シ長官ニ於テ仍ホ前令ヲ執リ之ヲ改テサルトキハ屬官タル者己テ舍テ命ニ順フノ外唯々職ヲ辭シ官ヲ去ルノ一途アルノミ但輔官輔弼ノ責アル議事官ノ議事ノ任アルニ至テハ一例ヲ以テ概スルコト得サルナリ

第四條法ノ及ハサル所律ノ問ハサル所唯廉耻アリテ以テ之カ防ヲ爲ス官吏ノ身ヲ處スル職務ノ内外ヲ論セス人民ノ具ニ瞻ル所ナリ苟廉耻ヲ失ヒ貪汚ノ行アルニ至テハ官吏ノ体面何ニ由テ之ヲ保タン而シテ政府ノ威信將ニ是ニ因テ地ヲ拂フニ至ラントス

第五條ハ機密ヲ示スナリ機密ニ二様アリ其一ハ事回ヨリ機密ニ屬スル者其一ハ長官ヨリ特ニ機密約束スル者是ナリ機密ヲ漏洩スル者ハ懲戒重キヲ加フルハ行政ノ已ムコトヲ得サルニ出ルナリ其職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同キ者ハ道義ノ宜シク然ルヘキナリ

第六條 第七條ハ清白ヲ望ムナリ官吏他ノ事務ヲ行フモ本職ヲ欲カサルトキハ事ニ害ナキカ如シト雖モ志嚮一ナラスシテ職務專ラナラサレハ以テ官ニ居ルヘカラサルナリ但シ給料ナキノ事務ハ之ヲ行フコトヲ妨ケス長官ノ許可ヲ得ルトキハ給料ヲ得テ事務ヲ行フモ亦妨ケス猶ホ狹隘ニ失ハサルナリ

職務ニ關シ他人ニ勞効アリ從テ禮儀ヲ以テ贈遺報酬ス然ルニ猶ホ長官ノ許可ヲ要シ始メテ收受スルコトヲ許ス者ハ官吏私ヲ以テ物ヲ受クルハ清廉ヲ傷ルニ嫌アレハナリ

第八條ハ公正ヲ重スルナリ人ヲ用ヒ事ヲ處スルノ際請謁ヲ納レ貨賄ニ瀆ル、トキハ情實ノ弊終ニ公義ヲ乱ルニ至ル是尤モ官吏ノ意ヲ致スヘキ所ナリ

第九條ハ勤勉ヲ重スルナリ倨傲怠慢ハ官ニ居ルノ道ニ非ス事意ニ協ハサルコトアリ誠ヲ竭シ忠言スルコト可ナリ若シ長官ノ許可ナクシテ擅ニ其任地ヲ去リ其職務ヲ離レ或ハ事ニ托シ病ヲ引キ以テ自ラ高シトナスカ如キニ至テハ義ヲ棄テ務ヲ敗ル公ニ於テ政機ヲ愆マリ私ニ於テ忠亮ニ乖ク是レ懲戒ノ宜シク加フヘキ所ナリ或ハ僚友朋比シテ故意ニ連串シ相率キテ引退スルカ如キニ至テハ情罪尤モ重シトス

第十條ハ處分ヲ示スナリ凡ソ紀律ニ違フヲ以テ職ヲ辭セシメ又ハ懲戒スル者ハ必其顯狀ニ據ルヘシ曖昧ノ隱事及風聞ヲ以テ處分スルコトヲ得ス其過失アリト雖モ素ヨリ功勞アリ以テ相補フヘク從テ處分ヲ宥恕スヘキ者ハ本屬長官其情狀ヲ酌ミ一定ノ尺度ニ拘泥スヘカラス是レ其ノ刑法ト同カラサル所以ナリ但シ宜シク狀ヲ具ヘテ太政大臣ノ量定ヲ請フヘクシテ本屬長官意ニ任シ上下スルコトヲ得サルハ其私ニ庇蔭スルコトヲ防クナリ其輕重ニ從ヒ



小過ヲ略シ才能ヲ使フ等機宜活用スルハ宜シク長官ノ意見ニ任スヘキナリ  
第十一條長官ノ所屬官ニ於ルハ固ヨリ監督ノ責アリ從テ檢察ノ務ニ任スヘシ  
但タ長官ハ大明ヲ欲メテ細察ヲ尙ハス是レ其ノ意ヲ加ヘテ操縦スヘキ所ナ  
リ

第十二條官吏ハ固ヨリ其本屬長官監督ノ下ニ屬スト雖モ其治績ヲ考ヘ其切邊  
ヲ計ルニ於テ勢極メテ難キ者アリ是レ巡察使ノ臨時ニ派遣スルコト己ムヲ  
得サル所以ナリ大寶令太政官部ニ巡察使掌巡察諸國不常置應須巡察權於內  
外官取清正灼然者充巡察ノ事條及使人數臨時量定ス

○勅使參向警備方

○內務省番外達 十二年十一月十二日

東京警視本署  
府 縣 東京府  
ヲ除ク

勅使參向ノ節內規別紙ノ通り候條自今宮內省ヨリ通報次第警備方可取計此旨  
相達候事

正式勅使參向內規

第一條 此內規ノ管スル期限ハ詔書祭文ヲ受ケ 皇居ヲ出ルヨリ復命迄ノ時  
間又各地方ニ於テハ其當日旅館ヲ出ルヨリ旅館ニ歸ル迄ノ時間トス  
第二條 使并ニ隨員大禮服ヲ着用ス

第三條 詔書祭文ハ錦ノ袋ニ納テ隨員首ニ掛ク若シ隨員ナケレハ勅使自ラ之  
ヲ捧持スル等ハ總テ時宜ニヨル

第四條 下乗ハ皇族下乗所ニ於テス

第五條 乗用ハ馬車又ハ騎馬タルヘシ

第六條 警備トシテ警部四騎ヲ付ス二騎前ニアリ二騎後ニアリ

第七條 途上常備ノ巡查ヲシテ一層注意セシム

○囚人護送手續

○太政官達第十号 明治十五年二月一日

內務省開拓使 東京府  
警視廳府縣 ヲ除ク

明治六年<sup>十一月</sup>第三百九十一号並同十年<sup>七月</sup> 四十九號ヲ以テ囚人護送規則及ヒ  
遞傳方相達置候處今般更ニ別冊ノ通囚人護送遞傳方改正シ本年七月一日ヨリ  
施行候條從前達中矛盾ノ廉ハ同日限廢止ス此旨相達候事

囚人護送手續

第一條 甲廳ヨリ乙廳又ハ集治監ヘ送移スル囚人ハ囚籍及ヒ處刑宣告書所持  
ノ物品ヲ併セ沿道警察本分署ニ於テ遞傳護送スヘシ

但一府縣管內本支監獄ノ間ニ護送スル囚人モ其距離拾里以外ニ至ルモノ  
ハ本文ニ準スルヲ得

第二條 新タニ就捕セシ犯罪人及ヒ諸令狀ニ據リ引致スル刑事被告人又ハ脱



走ノ軍人軍屬ノ遞傳護送ヲ要スル者モ前條ノ手續ニ準スヘシ

但シ入監後糾問等ノ爲メ所在ノ法衙ニ往復スルハ本文ノ限りニ在ラス

第三條 第一條第二條ノ護送ニ付スル囚人ノ員數及ヒ發出ノ日時ハ其當該官吏ヨリ前以テ沿道警察本分署ヘ遞報スヘシ

第四條 護送囚人ノ數ハ一行拾名以下トス護送警吏及ヒ繩取ノ人員ハ適宜タルヘシ

但シ便利海路ニヨルトキハ適宜囚人ヲ増加スルヲ得

第五條 遞傳護送ハ日出ヨリ日没マテヲ限リトス

第六條 警察本分署ニ於テハ護送囚人ノ郷貫氏名刑名又ハ犯罪見込書ノ要領及ヒ着發日時ヲ記載シ置クヘシ

第七條 護送ノ囚人ハ沿道警察本分署ニ宿セシムヘシ若シ支障アルトキハ該地戸長ニ照會シ宿所ヲ定メ適宜取締ヲナスヘシ

第八條 護送途中囚人病發スルトキハ沿道警察本分署ニ付シ治療スヘシ若シ死去スルトキハ該地戸長ニ埋葬ヲ囑シ引取人アル者ハ之レニ下附ス醫師ニ死去證書ヲ作ラ

シメ戸長及ヒ護送警吏連印シ書類物品ヲ併セ送達スヘキ衙署ニ遞付シ仍ホ發出衙署ヘ報知スヘシ

第九條 護送途中囚人逃亡スルトキハ先ツ緝捕方ヲ最寄警察本分署ニ報告ス

仍ホ發出衙署及ヒ送達スヘキ衙署ヘ報告スヘシ

但シ第八條及ヒ本文ノ手續ヲ爲スタメ他囚護送ヲ遲緩ス可カラス若シ速ニ手續ヲ了シ難キ場合ハ最寄警察本分署ノ助力ヲ請フコトヲ得

第十條 遞傳護送スル警察官吏ノ旅費ハ都テ沿道地方ノ警察費ヲ以テ支辨スヘシ

但シ繩取ノ雇給ハ第十一條第十二條ノ區別ニ依リ囚人ニ屬スル費用中ニテ支辨スヘシ

第十一條 第一條ニ掲クル囚徒ニ屬スル護送中ノ費用ハ明治十四年第十七號布告ニ依リ區分シ集治監ニ送ルトキハ沿道府縣ノ仕拂ニ立テ其他ハ出發府縣ノ監獄費ヨリ支拂フヘシ

第十二條 第二條ニ掲クル各犯人ニ屬スル護送中ノ費用ハ沿道地方警察費ヲ以テ支辨スヘシ

第十三條 護送囚人死没シ引取人ナキモ其所持金錢物品埋葬費ニ足ルモノアルモノ及ヒ陸軍隊付下士卒ノ埋葬費ハ第十一條第十三條支辨ノ限りニアラス尤モ其費額ハ都テ拾圓以内タルヘシ

但下士卒ノ分ハ追テ陸軍ヨリ各自ニ拂戻スヘシ

第十四條 遞傳ニ係ル囚人犯罪人ノ賄費額ハ警察本分署ニ於テハ都テ拘留人

十五年達第六十八号達ニテ改正



ノ例ニ依ルヘシ他ニ宿泊セシムルトキハ一宿ニ賄臥具點燈手數料ヲ合セテ  
金貳拾五錢以下一晝食七錢以下藥價診察料等ハ實費支辨スヘシ

### ○憲兵條例及事務規程

太政官第十一號達 明治十四年三月十二日

官省院使廳府縣

憲兵條例別冊之通相定候條此旨相達候事

但現今先ツ東京府下ニ其一隊ヲ實施シ他府縣ニハ追テ施行スヘシ

#### 憲兵條例

(本條例中明治十六年十一月第五十二号ヲ以テ  
改正加除アリ今簡約ニ從ヒ逐條之ヲ附記セス)

#### 第一章 憲兵汎則

- 第一條 凡ソ憲兵ハ陸軍兵科ノ一部ニ位シ巡按檢察ノ事ヲ掌リ軍人ノ非違ヲ  
視察シ行改警察及ヒ司法警察ノ事ヲ兼テ內務海軍司法ノ三省ニ兼隸ノ國內  
ノ安寧ヲ掌ル其戰時若クハ事變ノ際ニ於ケル服役ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二條 憲兵各軍管ニ布キ各府縣ニ配置ス
- 第三條 憲兵ノ職掌其軍紀ノ檢察ニ係ル事ハ陸海軍兩省ニ隸シ行政警察ニ係  
ル事ハ內務省ニ隸シ司法警察ニ係ル事ハ司法省ニ隸ス
- 第四條 憲兵其職務ニ關シ警視總監府知事縣令東京府知事ヲ除ク并ニ各裁判所檢事ヨリ  
指示ヲ受クル時ハ直チニ其事ニ從フヘシ
- 第五條 憲兵ハ軍管ノ司令官ニ對シテハ鎮臺條例第十九條及ヒ第二十條ヲ遵

#### 守スヘシ

- 第六條 巡察中若シ警察ノ職權ヲ有スル者又ハ巡查ヨリ助力ヲ要求スルコトア  
ラハ直チニ應援シ或ハ代ツテ其事ヲ掌ル又時宜ニ依リ憲兵ヨリ巡查ニ補助  
ヲ求ムルコトヲ得
  - 第七條 軍人遊歩中途上ニ醉酗暴行シ或ハ酒樓食肆等ニ暴動シ或ハ武權ヲ弄  
シテ人ヲ侮凌スル等凡ソ隊外ニ在テ兇暴ノ行爲ニ涉ル者ハ直チニ逮捕シ若  
シ暴行者數人アリテ悉ク捕獲スルコト能ハサル時ハ其中ニ造意者或ハ其威  
權アル者ヲ逮捕スヘシ
  - 第八條 若シ草賊一揆等ノ萌芽スルアラハ審カニ之ヲ視察シ其首唱ノ人名及  
ヒ其人員等ヲ探偵シテ速ニ報告スヘシ
  - 第九條 水火災ノ節ハ專ラ其防救ヲ爲シ非違ヲ警メ及ヒ貨物運搬ノ場所等ヲ  
監視スヘシ
  - 第十條 變死人アル時ハ速カニ其處分ヲナシ又老幼婦女及ヒ急病人或ハ瘋癲  
人等ノ危害ニ罹ル者アレハ其扶助ヲ加フヘシ
  - 第十一條 憲兵ハ命令書ヲ有スルニ非サレハ人ヲ逮捕シ若クハ人家ニ侵入シ  
若クハ物件ヲ差押ルコトヲ得ス
- 但現行犯及ヒ現行犯ニ准スル場合ハ此限ニアラス



第十二條 憲兵ハ漫リニ兵器ヲ用ルヲ許サス  
但其抗拒シテ制シ難ク殺傷シテ勢ヒ猶豫シ難キ者アル時ハ之ヲ用ユルモ妨クナシ

第十三條 凡何等ノ犯罪タルヲ論セス逃レテ外國公使ノ館地内ニ在ル者ハ之ヲ追捕スルヲ得ス此場合ニ於テハ其外部ヲ警備シ速ニ屯所ニ報告シテ其指揮ヲ受クヘシ

第十四條 憲兵ハ其職務上ノ過誤失錯懲戒ノ止ムヘキ者ハ陸軍懲罰例ニ照シ之ヲ處分ス

但事ノ軍紀ニ關セサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 布置撰任

十八年二月第七號達ヲ以テ廢止ムノ下ニテ三ト改

第十五條 憲兵ハ現今先ツ東京府下ニ其一隊ヲ設置シ三大隊ヲ以テ之レヲ編成シ憲兵本部ヲ置キ陸軍卿ニ直隸ス

第十六條 府内ヲ六區ニ分チ之ヲ憲兵ノ六管區トナシ各管區ニ若干ノ屯所ヲ設ク其六管區ノ配置左ノ如シ

第一管區 麴町區日本橋區京橋區

第二管區 芝區赤坂區麻布區荏原郡

第三管區 四谷區牛込區南豐島郡東多摩郡

第四管區 神田區本郷區下谷區淺草區

第五管區 深川區本所區南葛飾郡南足立郡

第六管區 小石川區北豐島郡

第十七條 憲兵ハ第十八條ヨリ第廿三條マテニ據テ其撰舉及進級ヲ爲ス者トス

但左ノ進級法ハ其最下限ヲ示ス者ナルヲ以テ其最下限ヲ越ル者ト雖モ必シモ直チニ進級セシムルノ例ニアラス

第十八條 兵卒ハ近衛及鎮臺ノ常備軍豫備後備軍ニ在テ左ノ三項ニ合格スル者ヲ選舉ス

第一項 年齢廿二歳ヨリ三十歳迄ニシテ身幹五尺以上ノ者

第二項 讀ミ書キヲ爲シ得ル者

第三項 行狀方正ノ者

第十九條 伍長ハ憲兵卒ノ服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰任ス

但シ時宜ニ依リ他兵科ノ伍長ニシテ其服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰任スルヲ得

第二十條 軍曹ハ憲兵伍長ノ服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰任ス

但時宜ニ依リ他兵科ノ軍曹ニテ其服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰任スルヲ得



ヲ得

第二十一條 曹長ハ憲兵軍曹ノ服役一ケ年ヲ經タル者ヨリ撰任ス

但時宜ニ依リ他兵科ノ曹長ニシテ其服役一箇年ヲ經タル者ヨリ撰任スル  
ヲ得

第二十二條 下副官ハ憲兵曹長若クハ他兵科ノ下副官ヨリ之ヲ撰任ス

第二十三條 士官以上ハ專ラ憲兵曹長以上ノ者ヨリシテ陸軍武官進級條例ニ  
基キ順次昇級セシムルヲ以テ正例トス  
但シ時宜ニ依リ他兵科ノ士官以上ヨリ之ヲ撰任スルヲアルヘシ

第三章 職務分掌

第二十四條 憲兵隊長ハ憲兵大中佐ノ内一名之ニ任シ憲兵本部長トナリ部下  
ノ憲兵ヲ統卒シ其命令ヲ司リ其勤惰ヲ監視シ憲兵本部ノ事務ヲ總理ス

第二十五條 隊長ハ各官廳ノ命令或ハ依頼ヲ受ケ其職務ニ服行シ及其職務ノ  
事ニ係リテハ直チニ各官廳ト往復スルヲ得

第二十六條 隊長ハ非常ノ事件アルヲ探知セハ即時ニ之ヲ内務卿陸軍卿司法  
卿及ヒ警視總監ニ急報スヘシ

第二十七條 隊長ハ非常ノ事件アルニ際シテハ時宜ニ依リ直ニ鎮臺兵ノ應援  
ヲ要求スルヲ得

第二十八條 隊長ハ各大隊長ノ報告ヲ受ケ月末毎ニ報告書ヲ作り行政警察ニ  
係ル者ハ内務卿ニ司法警察ニ係ル者ハ司法卿及ヒ檢事ニ申告シ其行政及司  
法ニ係ル者ヲ併セ陸軍卿ニ申報スヘシ

但海軍部内ニ關スル報告ハ別ニ海軍卿ニ申告スヘシ

第二十九條 隊長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ軍  
曹及ヒ兵卒各一名ヲ具スルヲ得

第三十條 本部次長ハ憲兵少佐之ニ任シ長ヲ輔佐シテ部事ヲ整理シ長事故ア  
ル時ハ其代理ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 次長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍  
長及ヒ兵卒各壹名ヲ具スルヲ得

第三十二條 本部副官ハ憲兵大尉之ニ任シ次長ニ亞テ部事ヲ整理シ兼テ武器  
掛及ヒ書記ノ勤惰ヲ監視ス

第三十三條 本部副官ハ本部長若クハ次長ノ命ヲ受ケ各管區並ニ各屯所ヲ巡  
回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具スルヲ得

第三十四條 本部下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ本部副官ノ命ヲ受ケ本部中ノ庶  
務ヲ掌ル

第三十五條 大隊長ハ憲兵少佐之ニ任シ部下ノ指揮ヲ司リ巡察ノ部署ヲ定メ



其隊ノ事務ヲ總理シ會計ノ事務ヲ監視ス

第三十六條 大隊長ハ時々所轄各管區並ニ各屯所ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具スルヲ得

第三十七條 大隊長ハ各中隊長ノ報告ヲ受ケ一週毎ニ報告書ヲ作り之ヲ隊長ニ申報スヘシ

但非常若クハ至急ヲ要スル事件ハ急報又ハ日報ヲ以テ申報スヘシ

第三十八條 大隊副官ハ憲兵中尉之ニ任シ其隊中ノ庶務ヲ掌リ併セテ武器掛及ヒ書記ノ勤惰ヲ監視ス

第三十九條 大隊副官ハ大隊長ノ命ヲ受ケ各管區並ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具スルヲ得

第四十條 大隊長下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ大隊副官ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌ル

第四十一條 中隊長ハ憲兵大尉之ニ任シ其中隊ノ指揮ヲ司リ又管區以下ノ會計給與ノ事ヲ管理ス

第四十二條 中隊長ハ時々管區内ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具スルヲ得

第四十三條 中隊長ハ管區内ニ非常ノ事件アル時ハ直チニ出張シ之ヲ大隊長

ニ急報シ其指揮ヲ受ケルヲ例トス

第四十四條 中隊長ハ各屯所ノ報告ヲ受ケ一週毎ニ報告書ヲ作り之ヲ大隊長ニ申報スヘシ

第四十五條 小隊長ハ憲兵中小尉ノ内之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受ケ時々各屯所ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視シ其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具スルヲ得

第四十六條 小隊長ハ各管區ノ事務ヲ分掌シ各屯所ノ報告ヲ掌ル

第四十七條 小隊長ハ變死人等アル時ハ醫員ヲ卒テ其場ニ臨ミ死骸ヲ檢視シ軍人ハ該軍衛ニ通報シ其他ハ親戚故舊ニ引渡スヘシ若シ親戚故舊其地ニアラサル時ハ區役所若クハ戸長役場ニ引渡ス可シ

但シ時宜ニ依リ半隊長ヲ以テ檢視セシムルヲ得

第四十八條 小隊長ハ非常ノ事件アル時ハ之ヲ中隊長ニ急報シ其指揮ヲ受ケ

第四十九條 小隊長ハ憲兵軍曹之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌ル併セテ書記ノ監督ヲ爲ス

第五十條 半隊長ハ憲兵軍曹之ニ任シ小隊長ノ命ヲ受ケ小隊長ノ在ラサル屯所ニ於テハ古參ノ者其長トナリ小隊長ノ職務ヲ辨理ス

第五十一條 半隊長ハ巡察ヲ派遣スルニ當リ其人員分隊ニ起ル時ハ之カ長トナリ分隊長以下ノ勤惰ヲ監視ス



第五十二條 本部武器掛及書記ハ憲兵曹長之ニ任シ大隊附武器掛及書記ハ憲兵曹長之ニ任シ各副官ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

第五十三條 分隊長ハ憲兵伍長之ニ任シ巡察及護送等ノ事ニ當リ分隊ヲ以テスルキハ其指揮ヲ爲シ兵卒ノ勤務ヲ監視ス

第五十四條 中隊附ノ書記モ亦々憲兵伍長之ニ任シ小隊副長ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

第五十五條 兵卒ハ守區ヲ畫シテ巡察スルモノナリト雖モ警察上追蹤スヘキモノアルニ方リテハ自他ヲ區畫スルノ限ニ在ラス

又他ノ管區ト連續スルノ事件ハ相通牒シテ其處分ヲ爲ス渾テ巡察中ニ生スル事件ハ手帖ニ記載シ其報告ニ供ス

○内務省達無號 明治十四年十月廿二日 憲兵本部  
行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相達候事

行政警察事務規程

第一條 行政警察ハ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ其事務ヲ大別シテ左ノ四項トス

- 一 人民ノ妨害ヲ防護スルコト
- 二 法章ノ遵奉ヲ觀察スルコト

三 健康ヲ看護スルコト

四 國事ニ關スル犯罪ヲ未萌ニ搜索警防スルコト

第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス可ラス

第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察專務官吏其場ニ臨ミタルキハ其處分ヲ專務官吏ニ讓ルヘシ

○内務省乙第五十二號 明治十四年十月廿五日 警視廳  
憲兵職掌中行政警察事務ノ儀別紙<sup>別紙ハ前文ノ通及達示候條爲心得此旨相達候</sup>達示ヲ云フ

○警部長以下服制

○達第拾貳號 明治十七年一月廿六日 府 縣 東京府

明治十五年ニ第拾三號達警部長以下正服制表圖式左ノ通改正候條此旨相達候事

警部長以下正帽正服制表圖式

表中寸法ハ都テ曲尺ヲ用ウ

官	等	帽	章	襟	章	袖	章	袴	章	鈕	卸	地	色
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



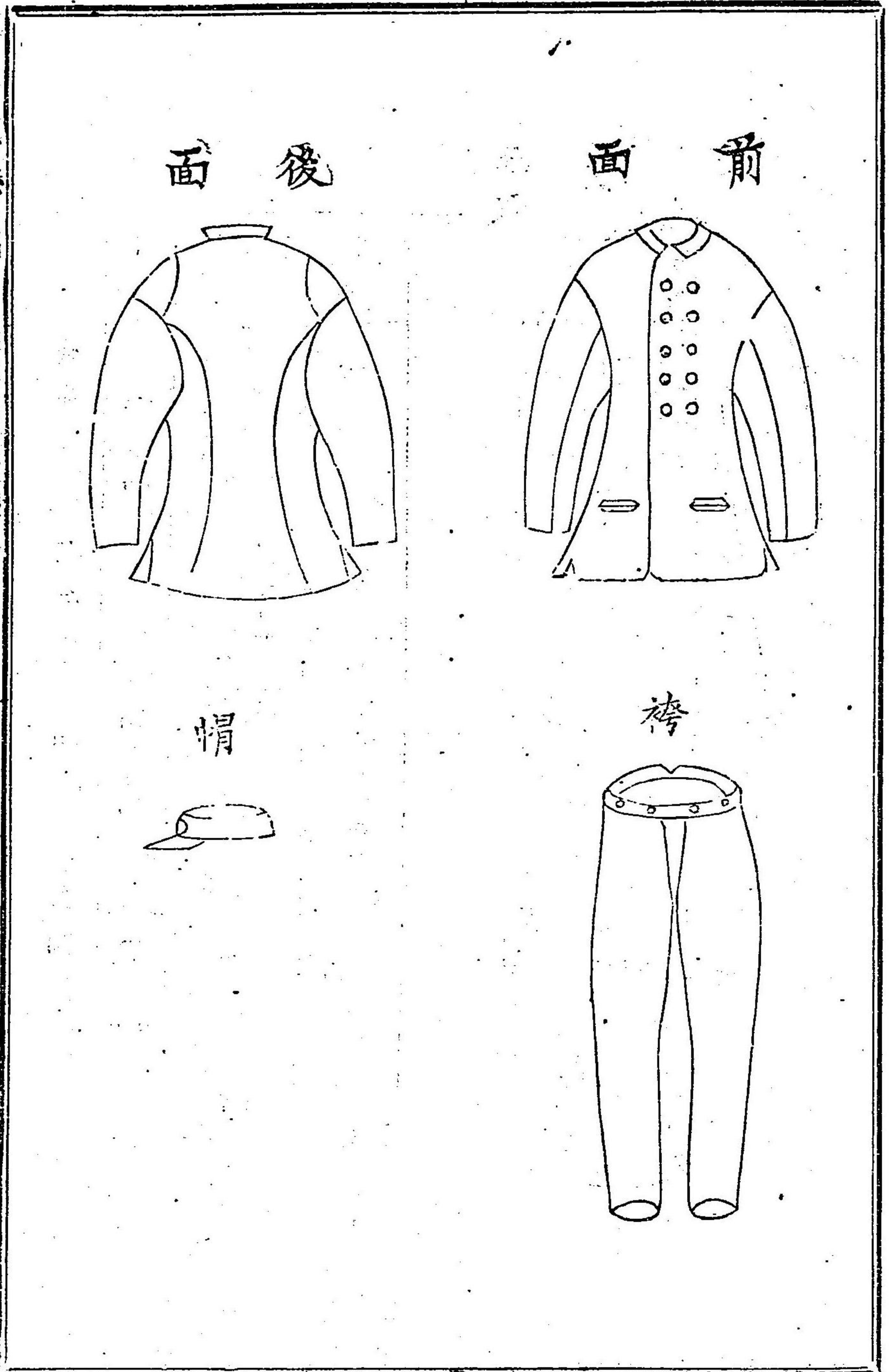




○内務省甲第三拾四號 明治十八年十月二十日 府 縣 東京府  
 警部長警部警部補警服之儀ニ付明治十五年<sup>四</sup>月乙第二十四號達相廢シ更ニ製式  
 左ノ通相定ム  
 但明治十九年十二月迄ハ從前ノ略服ヲ用ユルモ苦シカラス  
 右相達候事

警服表圖

凡例	警部補	警部	警部長	帽	章	袖章	袴章	鈕釦	服色	服質
				金日章徑 一寸五分 橫線黑毛線 五分一條 二分二條	黑毛線 ナシ	金日章	紺 黒	絨		
一略服ハ總テ平常職務ノ際着用スルモノトス 一通常禮服ニ換用スルヲ得	同 同 同二條	同 同 二分一條 一分三條	同 同 同	同	但線數總 テ帽章ニ 同シ	但夏季ニ 限リ白地 ヲ用ルモ ナシ且	袖章ナシ トス同			



附録甲編 警部長以下服制



警部長警部外套并帽日雨覆表圖

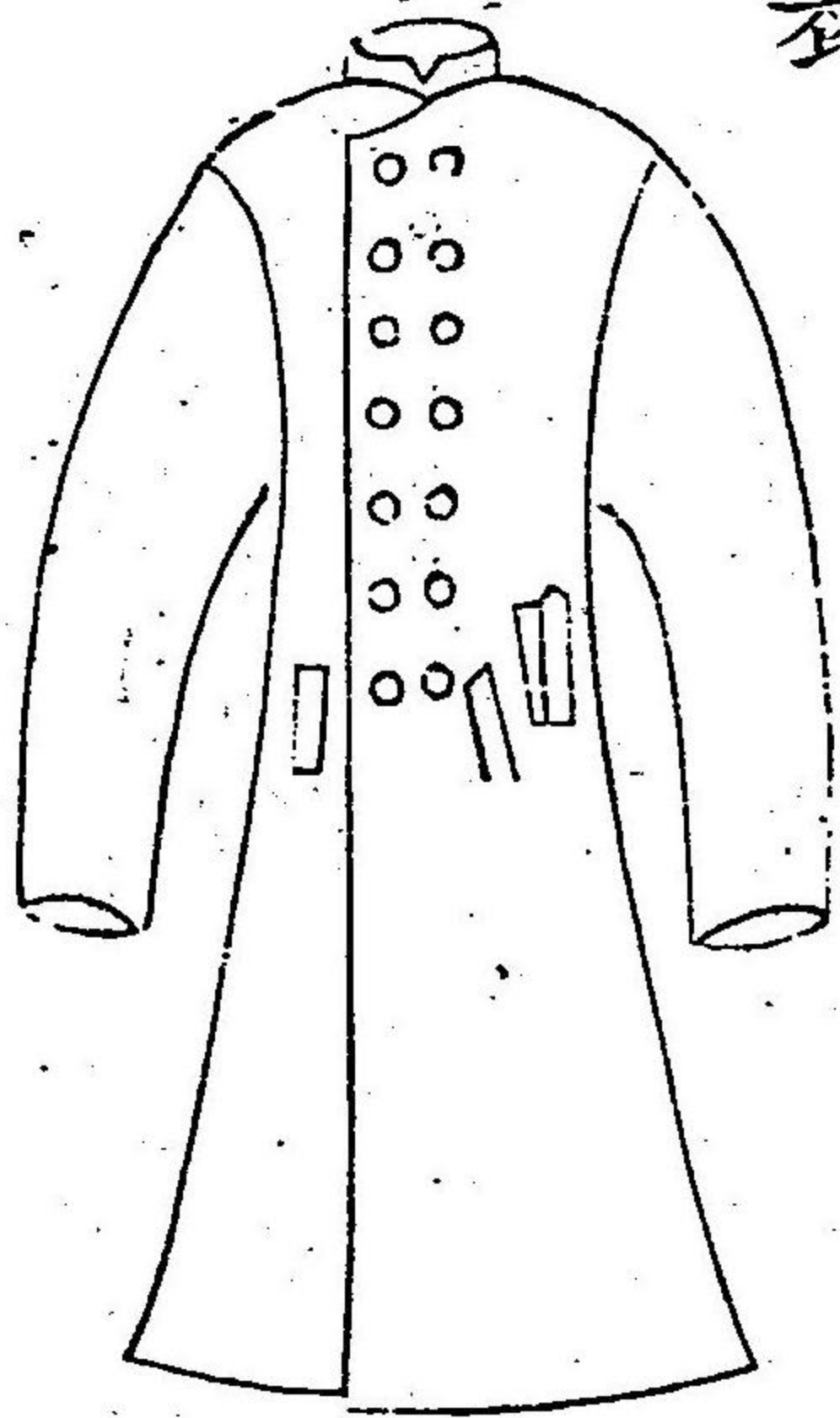
外 套 同 卸 同 地 質 帽 日 雨 覆 同 地 質

無 徽 章 金 日 章 紺 黑 絨 無 徽 章 雨 覆 紺 黑 絨 日 覆 白 色

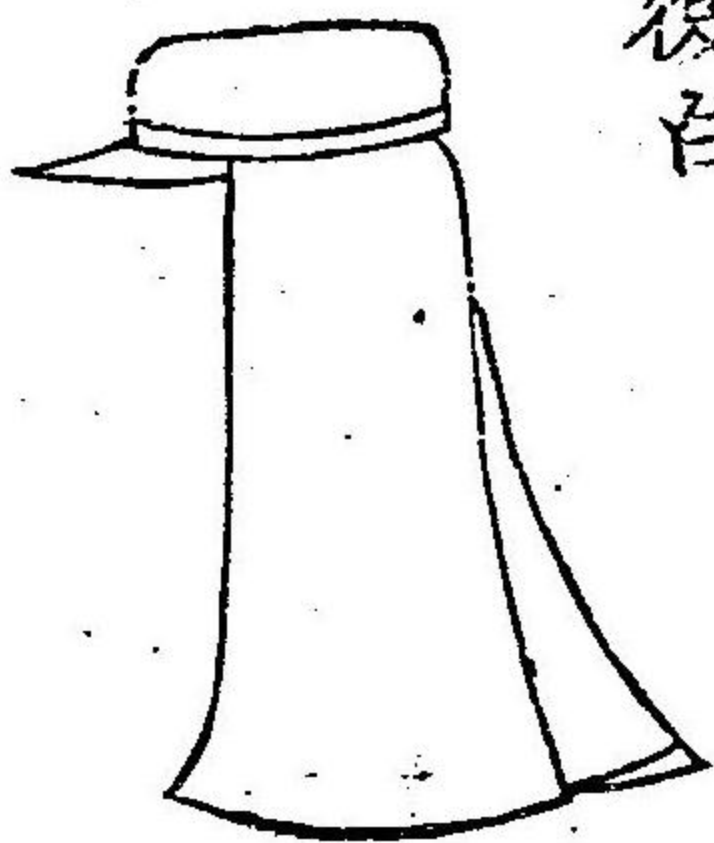
但其數圖ノ如シ

凡 例 外套ハ丈ケ踵上五寸後裂ケ股上二寸ニ止ル但シ便宜黒紺地引廻シ合羽ヲ以テ之ニ代用スルヲ得其丈ケハ手ヲ垂下シテ手根ニ至ルヲ度トス

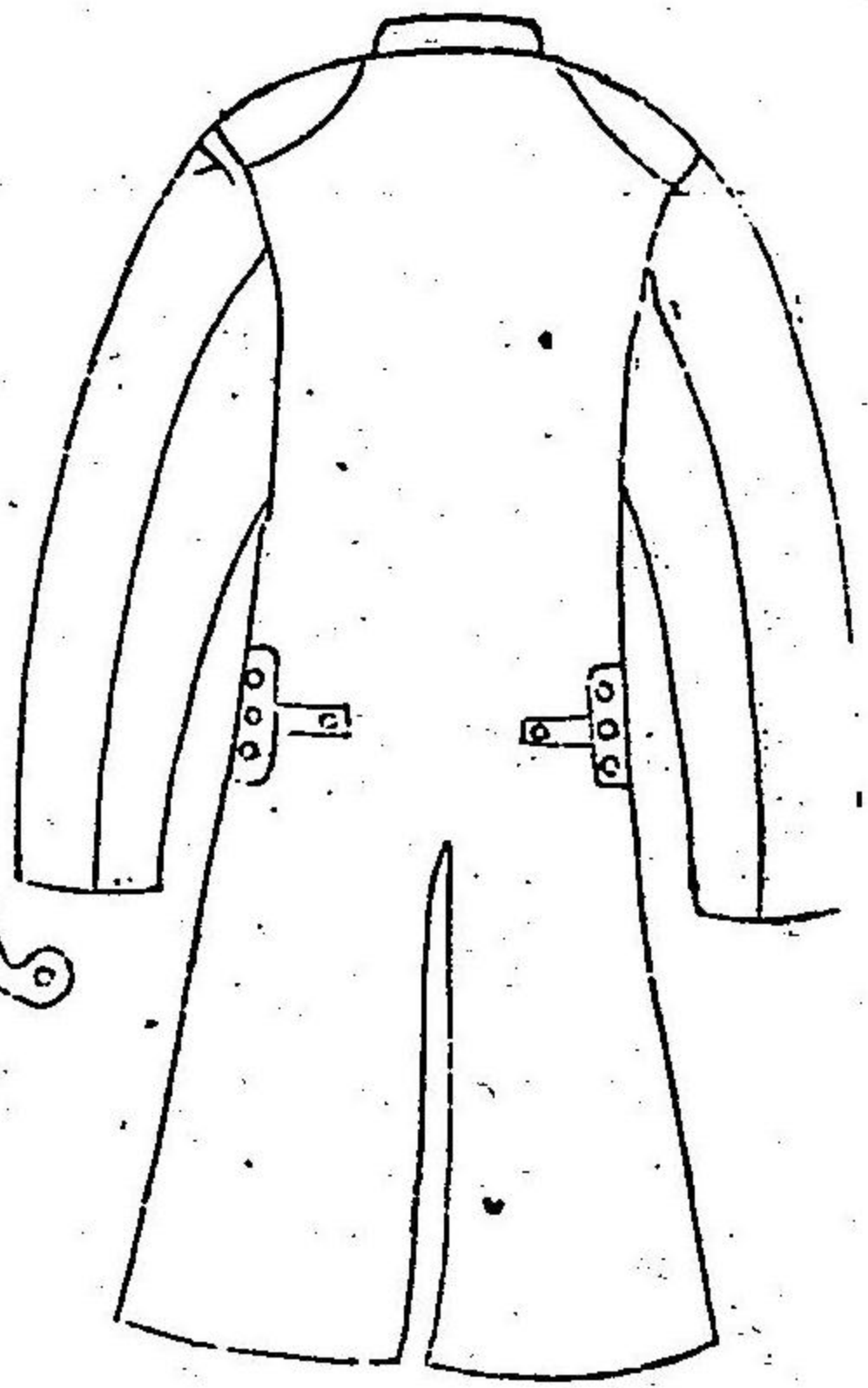
雨衣 前 面



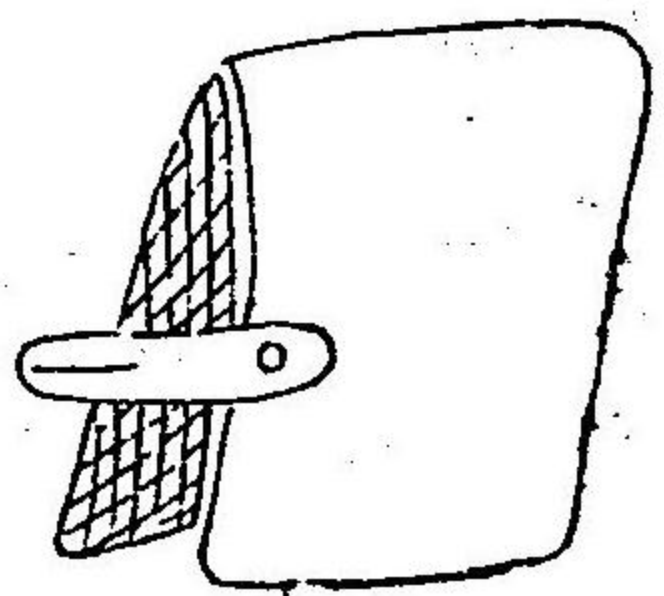
日覆白



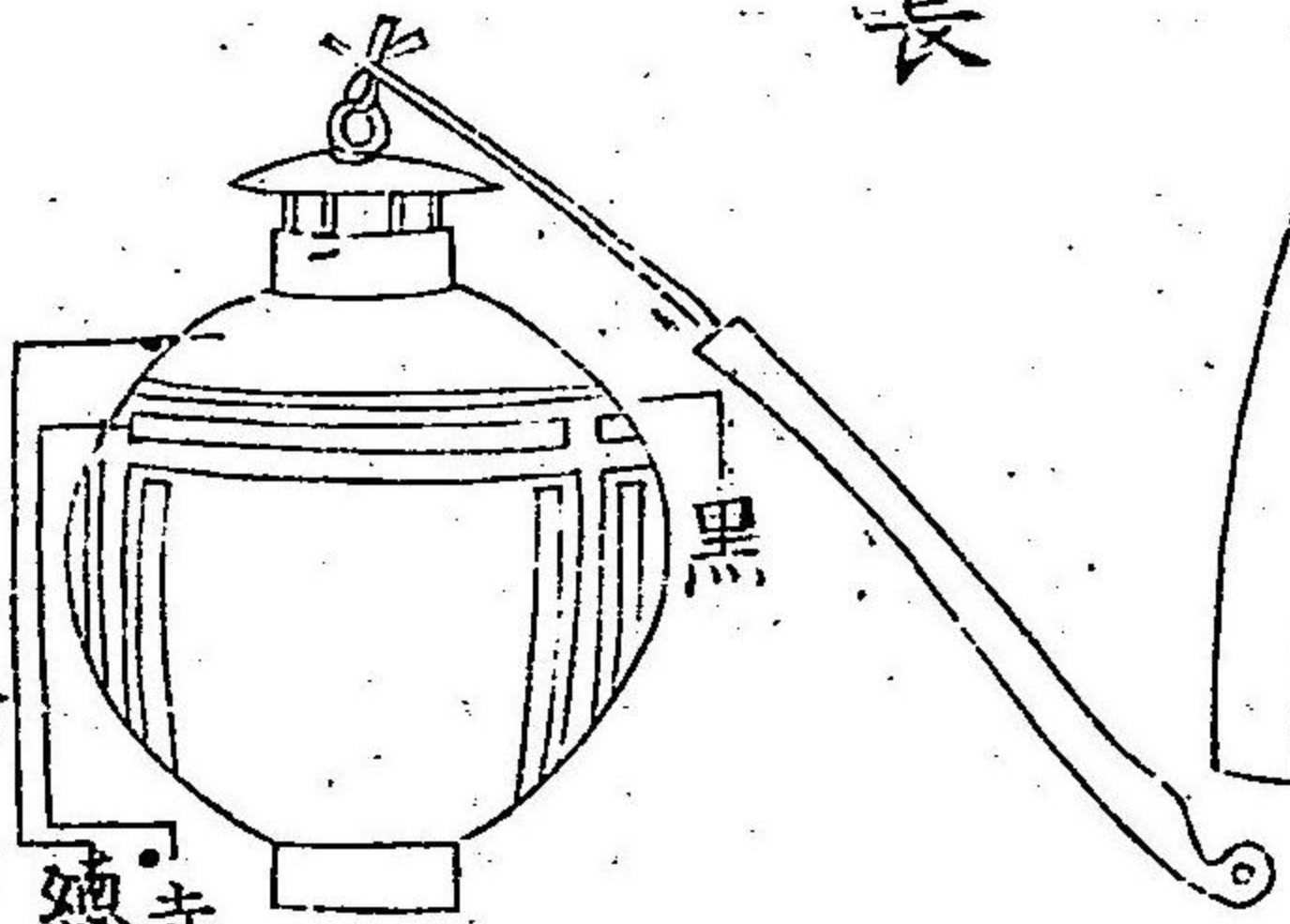
後 面



雨覆



警部長



堅線 赤色幅二寸三條 三ヶ所  
横線 赤色幅六分一條  
黒色幅六分一條

總赤

同上

警部 敬部補



横黒線ヨリ上其  
半ハヲ赤クス



○警察官吏禮式同禮式心得

○内務省令第十八號 明治十九年九月廿七日

廳府縣東京府  
ヲ除ク

警察官吏禮式左ノ通之ヲ定ム

警察官吏禮式

- 第一條 警察官吏制裝ヲ爲シタルトキハ以下各條ニ從ヒ禮式ヲ行フヘシ
- 第二條 凡ソ禮式ヲ行フニハ姿勢ヲ正シ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ
- 第三條 禮式ヲ別ツコト左ノ如シ
  - 一 最敬禮
  - 二 敬禮
- 第四條 最敬禮ハ五步前ニ於テ正面ノ方向ヲ取りテ直立シ兩足ヲ整ヘ兩手ヲ垂下シ首ヲ禮式ヲ受クヘキ人ニ對面シ其人ノ通過シ了ルノ間之ニ注目スヘシ
- 警部補以上ニ在テハ前項ノ外仍ホ禮式ヲ受クヘキ人ノ正面ニ來リタルトキ右手ヲ舉テ帽ニ當ツヘシ
- 第五條 敬禮ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ對シ五步前ニ於テ左手ヲ垂下シ右手ヲ舉ケ五指ヲ整閉シ其第一關節ヲ帽ノ下端ニ當テ之ヲ注目スヘシ
- 第六條 警部補以上ハ 天皇三后皇太子及皇族ニ對シテ最敬禮ヲ行フヘシ

馬上ニ在ルモノハ正面ノ方向ヲ取り馬ヲ駐メ禮式ヲ行フヘシ道路狹隘ニシテ之ヲ爲シ得ヘカラサルトキハ韁ヲ縮メテ馬首ヲ舉ケ通過ノ際右手ヲ舉ケ帽ニ當ツヘシ

内閣總理大臣各省大臣正式勅使及東京ニ在テハ警視總監東京府知事其他ノ府縣ニテハ所屬ノ知事并ニ上班ノ警察官ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ

第七條 巡查ハ 天皇三后皇太子皇族内閣總理大臣各省正式勅使及東京ニ在テハ警視總監東京府知事其他ノ府縣ニ在テハ所屬ノ知事ニ對シ最敬禮ヲ行フヘシ其他上班ノ警察官ニハ敬禮ヲ行フヘシ

第八條 本邦駐在ノ各國公使タルコトヲ認知シタルトキハ警部補以上ニ在テハ敬禮ヲ行ヒ巡查ハ最敬禮ヲ行フヘシ

第九條 物品ヲ攜帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ禮式ヲ受クヘキ人ニ行逢タル際之ニ注目シ若シ一手ニ攜帶スルトキハ他ノ一手ハ之ヲ垂下スヘシ帽ヲ冠セサルトキ亦之ニ注目シ兩手ヲ垂下スヘシ

第十條 駐立スル際禮式ヲ受クヘキ人ノ通過スルトキハ正面ノ方向ヲ取り其儘兩手ヲ垂下シ直立スヘシ若シ椅子ニ寄タルトキハ起立シテ本文ノ禮式ヲ行フヘシ

第十一條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シテ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ル者



ノミ相當ノ禮式ヲ行ヒ其他ノ者ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ

第十二條 同班警察官吏ハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第十三條 警衛消防囚徒護送特別ノ注意ヲ要スヘキ職務ニ從事スルキハ禮式ヲ行フノ限ニアラス

○内務省訓令第十九號 明治十九年九月廿七日 廳府縣東京府ヲ除ク

警察官吏禮式心得左ノ通之ヲ定ム

警察官吏禮式心得

- 第一 警察官吏タル者ハ其上官ニ對シ從順ナルヘキハ勿論之ニ對シ禮讓ヲ尽サハル可ラス上官タル者亦言語ハ勿論舉動ニ於テモ決シテ下班ノ者ヲ凌侮シ又ハ之ト狎暱スヘカラス
- 第二 一般ノ官吏ニシテ公務ヲ帶ヒ其管内ヲ巡回スル等ノコトアルトキハ場合ニヨリ適宜之ニ對シ禮式ヲ行フコトアルヘシ
- 第三 禮式ヲ行フニハ如何ナル場合ト雖モ其禮式ヲ受クヘキ人ヲシテ其體ヲ轉回スル等ノ勞ナカラシメ之ニ對シ常ニ便利ノ道ヲ讓ルハ下班者ノ上官ニ對シ從順ナル義務ナルヲ以テ途上上官ニ出會シタルトキハ其宜ニ應シ右又ハ左ニ避クヘシ殊ニ狹隘ノ道路及ヒ橋梁廊下階子段等ニ於テハ立止マリ上官ノ通行ヲ待ツヘシ若シ如此場所ニ於テ下班ノ者既ニ進行中ナルトキハ

立戻リ上官ヲシテ已レノ通過ヲ待タシメサル様注意スヘシ

第四 禮式ヲ行フ際ハ喫煙又ハ談笑等ヲ爲ス可ラス

第五 城門橋梁及ヒ狹隘ノ道路ニ於テ最敬禮ヲ行ハントスルニ方リ通行人ノ妨トナルノ恐レアルトキハ敬禮ヲ行ヒ最敬禮ヲ行フニ及ハス其他禮式ヲ受クヘキ人合圖ヲ爲シ又ハ其他ノ舉作ニ由リ最敬禮ヲ停メタルトキ亦全様タルヘシ

第六 下班者上官ト全行スルトキハ常ニ二三歩ノ後ニ從フヘシ上官若シ己レニ對シ談話セルトキハ其左側ニ副ヒ上官ト足並ノ違ハサル様注意スヘシ但左側ニ副フトキハ上官ヲシテ不便利ナラシメ又ハ危險ナラシムルノ恐レアルトキハ其宜キニ應シ右側ニ副フモノトス

第七 下班者途上ニ於テ上官ニ出會シ申告ヲ爲サントスルトキハ凡ソ其三步前ニ進ミ直立シテ申告スヘシ上官若シ歩ヲ止メスシテ進行スルコトヲ示シタルトキハ下班ノ者ハ上官ノ左側ニ副ヒ同步シテ其申告ヲ爲スヘシ但左側ニ副ヒ上官ヲシテ不便利又ハ危險ナラシムルノ恐レアルトキハ前項但書ノ例ニ全シ

第八 上官他人ト談話スルトキハ成ルヘク之ヲ妨ケサル様注意シ此際自ラ申告セシト欲スルコトアルモ先ツ暫ク差扣ヘ談話ノ終ルヲ待テ申告スヘシ



- 第九 上官ト全歩スル際家屋若クハ室内ニ入ラントスルトキハ下班ノ者其戸ヲ開キ先ツ上官ヲシテ之ニ入ラシムルハ勿論ナリトス
- 第十 警部補以上ニ在テ官署室内ニ入ルトキハ帽ヲ脱スヘシ但下班ノ者ノ室内ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ナシ
- 第十一 巡查帶劔シテ官署室内ニ入ルトキハ帽ヲ脱スヘカラス其劔ヲ帶セサルトキハ脱帽スヘシ
- 第十二 下班ノ者上官ノ室内ニ入ルトキハ其入口ニ直立シ來意ヲ告ケ指揮ヲ待ツヘシ
- 第十三 室内ニ於テ上官ニ申告ヲ爲ストキハ其三步前ニ進ミ警部補以上ニ在テハ劔ヲ左手ニ握シ帽ヲ右手ニ持テ帽ノ裏面ヲ体ニ着ケ徽章ヲ前面ニ向ケ直立スヘシ巡查ニ在テハ劔ヲ左手ニ握シ右手ハ垂下スヘシ其劔ヲ帶セサルトキハ帽ヲ左手ニ持テ右手ハ垂下スヘシ申告ヲ終リタルトキハ徐ニ左回シテ舊席ニ復スヘシ上官ノ招呼ニ應シタルトキ亦同シ
- 第十四 室内ニ於テ公務ヲ談スルトキ下班ノ者上官ノ許可ヲ得ルトキハ着席スルヲ得ヘシ
- 第十五 上官物品ヲ下班ノ者ニ交付スルニ際シテハ其二步前ニ進ミ右手ヲ以テ之ヲ受クヘシ下班ノ者上官ニ物品ヲ呈スルトキ亦全シ

八年達第廿九號  
 ナテ改稱同年達  
 卒ト改稱同年達  
 第百八十二號ヲ  
 以テ選卒巡査ト  
 改稱

- 第十六 途上ニ於テ上官ノ答禮ハ舉手スヘキモノトス下班ノ者ハ假令上官ノ答禮ナシト雖モ決シテ己レヲ輕侮シタリトノ念ヲ懷クヘカラス
- 第十七 凡ソ禮式ニ上班ト稱スルハ巡查ノ警部警部補以上ニ於ケル警部警部補ノ警視以上若クハ警部長ニ於ケルカ如シ但署員ノ其署長ニ於ケル亦全シ
- 第十八 職務上人民ヨリ正當ニ禮ヲ受ケタルトキ之ニ答禮スルハ勿論ナリトス

○巡查賞與規則

府 縣

○達第百號 明治七年七月廿九日

明治六年十一月第三百九十二號達書中選卒番人賞與規則左ノ通改正候條此旨相達候事

- 選卒番人賞與規則
- 一 拒捕ノ賊ヲ獲ル者
- 一 金拾圓以下ノ賊ヲ獲ル者
- 一 貨幣贗造ノ者ヲ獲ル者
- 一 放火或ハ人殺ノ者ヲ獲ル者
- 一 強盜ヲ獲ル者
- 一 金五圓以下ノ賊ヲ獲ル者







ヲ經テ施行可致此旨相達候事  
但實施ノ府縣ハ八年<sup>一</sup>第三號并ニ九年<sup>八</sup>第八拾號達別表中免職歸國旅費ハ  
相廢候儀ト相心得ヘシ

巡查看守給助例

第一條 給助ハ退職給助傷痕給助死亡給助療治料祭祀料ノ五種トス

第二條 給助ヲ與ル者ハ左ノ如シ

- 一 退職給助 勤績<sup>巡查ヨリ看守ニ看守ヨリ</sup>巡滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ  
一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給ス
- 二 傷痕給助 職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給ス
- 三 死亡給助 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痕ニ原シテ死亡  
スル者又ハ職務上傳柴病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
- 四 療治料 職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹ル者ニ之ヲ給ス
- 五 祭祀料 奉職中死亡スル者ニ之ヲ給ス

第三條 退職給助ノ額

- 一 勤績滿五年ノ者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ  
給ス滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラ  
サル額ヲ増給ス

第四條 傷痕給助ノ額

- 一 一等傷<sup>終身不具トナリ自用  
ヲ辨スル能ハサル者</sup>ハ年金三拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサ  
ル額ヲ給ス
- 二 二等傷<sup>終身不具トナリ自  
用ヲ辨シ得ル者</sup>ハ年金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル  
額ヲ給ス

第六條 死亡給助ノ額

- 一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カ  
ラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス  
但寡婦アレハ孤兒ニ給ス
  - 二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナク祖父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹  
ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少  
カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
  - 三 相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ廢篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ  
際シ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 第六條 療治料ハ傷痕又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス
- 第七條 祭祀料
- 一 奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ



多カラサル額ヲ給ス滿一年以上一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス

第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス

一 公權ヲ剝奪セラレタル者

二 懲罰ニヨリ免職セラレタル者

第九條 左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

一 俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者

二 公權ヲ停止セラレタル者

三 失踪シタル者

四 許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

○内務省達甲第七號 明治十九年二月二十六日府縣 東京府及沖繩縣ヲ除ク

明治十五年<sup>七</sup>第四拾壹號公達巡查看守給助例ノ儀未タ施行セサル地方モ有之候處明治二十年度ヨリ施行スヘシ

### 官吏懲戒例

○達第三拾四號 明治九年四月十四日

院省使廳府縣

今般官吏懲戒例左ノ通相定候條此旨相達候事

### 官吏懲戒例

十三年達第四號  
ニテ改正

第一條 自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ

第二條 懲戒ノ法三種トス第一譴責第二罰俸第三免職

第三條 譴責ハ懲戒ノ輕キモノトシテ本屬長官ヨリ譴責書ヲ付ス

第四條 罰俸ハ一月分拾分ノ壹ヨリ少カラス三月分ヨリ多カラサルノ俸ヲ奪フ

俸ヲ追スルノ法其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追了シ其以上ハ毎月給俸ノ半額ヲ領置シ數滿テ大藏省ニ送付ス

第五條 懲戒ヲ以テ免職スル者ハ本屬長官ノ意見ニ從ヒ其委任ハ具狀奏請シテ之ヲ免シ位記ヲ返上セシム

但懲戒ニ由ルニアラスシテ免職スル者ハ長官旨ヲ諭シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ然後ニ免許スヘシ

第六條 諸省長官ハ所屬奏判任官ヲ懲戒ス

第七條 府縣奏任官ハ太政大臣之ヲ懲戒ス府縣並警視廳判任官ハ其長官之ヲ懲戒ス

第八條 四等以下ノ判事ハ司法卿之ヲ懲戒ス府縣官判事ヲ兼ル者ノ其所屬判任官ニ於ルハ他ノ委任以上府縣官ノ叶議ヲ得タル後之ヲ懲戒ス



第九條 府縣長官警視長官其所屬判任官ヲ懲戒スルニ其譴責ヲ專行スルヲ得ルヲ除クノ外其罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ内務卿ニ届出ヘシ  
府縣官判事ヲ兼ル者其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ司法卿ニ届出ヘシ

第十條 其有心故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト雖モ之ヲ司法官ニ移シ本屬長官專ニ處分スルヲ得ス

○巡查懲罰例

○内務省乙第九十二號 明治九年八月五日

廳府縣東京府ヲ除ク

巡查懲罰例別紙ノ通改正候條此旨相達候事

第一條 凡職務ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アル者ハ其情狀ヲ審察シ俸給一ヶ月百分ノ一ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ輕キ者ハ呵責ニ止ム

第二條 凡犯狀ノ職務ヲ耻カシムルニ係ル者ハ免職ス

第三條 凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ル者ハ追徴スルヲ得ス

第四條 凡罰金ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム

但月俸ノ三分一ヲ過クルヲ得ス

第五條 凡官物ヲ遺失及ヒ毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セ

シム

○行旅死亡人取扱規則

○第四十九號布告 明治十五年九月卅日

行旅死亡人取扱規則

第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキ所在戸長ハ之ヲ最寄墓地へ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルル戸長ハ死亡ノ狀況並ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長へ通報スヘシ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルルハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルルハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルル戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄場場へ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルルハ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルルハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ



但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルコト能ハサルキハ直ニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルキハ之ヲ本籍へ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方稅雜稅收入ニ組入ルヘシ

○變死ニ係ル屍檢査上解剖

○第二十二號布告 明治十年二月廿一日

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事方<sup>檢事派出ナキ地</sup>ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルヲ得

○倒死變死者遺物取扱方

○內務省乙第百廿三號 明治八年九月廿五日

昨七年七月中甲第廿四號當省布達ノ内倒死或ハ變死セシモノ若シ所持ノ遺金並ニ品物等有之候ハ、有籍者ハ其家元ニ下付シ無籍者ハ埋葬其他ノ費用ニ供セシ上尙餘贏アラハ地方廳へ爲納窮民救助或ハ病院費用等ノ内へ仕拂其旨可届出事

但品物賣拂ヒ金ニ換ヘ費用ニ充ル如キハ同様可相心得事

○出生死去寄留届出方

○內務省令第十九號 明治十九年九月廿八日

明治四年四月四日布告戶籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年<sup>正</sup>第四號布告第八項寄留者届出方左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

第一條 出產アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第二條 死者アリタルトキハ埋葬以前ニ届出ヘシ

第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第四條 廢戶主廢嫡改名復徃身分變換其他願濟ノ上戶籍ニ登記スヘキ事項ハ其許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第五條 前數條ニ記載シタル事項ハ戶主ヨリ届出ヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ親族二人以上又ハ其事ニ關係アル者ヨリ本籍地戶長ニ届出ヘシ但本籍地外ニアルトキハ現在地戶長ニ届出且同時ニ本籍地戶長へ届書ヲ發送スヘシ

第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戶長ニ届出且同時ニ本籍地戶長へ届出ヲ發送スヘシ

第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テ



ハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ

第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第九條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○贋造貨幣取扱規則

第五十七號布告 明治九年四月十九日

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

贋造金銀銅貨紙幣取扱規則

第一條 新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋テ其而前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄警察出張所或ハ分所或ハ區戸長ニ差出シ其顛末ヲ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スル時ハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ

但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル

正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換ヘ相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換テ乞フヘシ

第三條 若シ正贋定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

第四條 古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ

第五條 贋造ヲ知ルト雖斷截セス持主ニ還付シ又ハ申立テ等閑ニスルモノハ相當ノ處罰ヲナスヘシ

○描改紙幣納付方

○大藏省甲第拾二號 明治九年五月十八日

本年<sup>四</sup>太政官第五拾七號公布贋造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓拾圓ト五圓二圓ト壹圓半圓ト貳拾錢拾錢何レモ豎横ノ寸法同様ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ貳拾錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有



之右ハ素ヨリ贗製ノ品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ付該紙幣發見候ハ、裏面ノ紋色別紙ノ通各種毎ニ裏面ノ紋色ヲ分ツ暨ヒ描改ノ證ヲ所持人へ明示シ其儘警察出張所等へ差出同所於テハ右紙幣ノ原因其外取糺處分相濟候ハ、引換切ニ取計紙幣察へ相納候儀ト可相心得此旨布達候事

- 百圓札 裏而淡紅地ニ紋色深紅
- 五十圓札 同 淡青地ニ同 深青
- 拾圓札 同 淡紅地ニ同 紫
- 五圓札 同 淡黑地ニ同 青
- 貳圓札 同 橙黃地ニ同 茶褐色
- 壹圓札 同 淡青地ニ同 深青
- 半圓札 同 白地ニ同 淡褐色
- 貳拾錢札 同 白地ニ同 青
- 拾錢札 同 白地ニ同 綠

○集會條例

○第十二號布告 明治十三年四月五日

集會條例別冊ノ通被定候條此旨布告候事

集會條例

十五年第二十號布告ヲ以各條改正追加

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日

ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其

會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政

出テ其認可ヲ受クヘシ其社則テ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルモ全様タ

ルヘシ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルヲアレハ社中ノ事ハ何事タ

リトモ之ニ答辨スヘシ前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ

講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルモ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定

規ヲ初會ノ三日日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルモハ爾後ノ例會ハ届出ニ及

ハスト雖モ之ヲ變更スルモ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認

メルモ之ヲ認可セズ又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ證ヲ檢

査シ會場ヲ監視セシムルヲアルヘシ

警察官會場ニ入ルモ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルモハ結社集會ニ



關スル事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

第六條 派出所ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルトキ講談論議ノ屆書ニ掲ケサル事項ニ亘ルトキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキ及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命ジテ之ニ從ハサルトキハ至會ヲ解散セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命ジタルトキ地方長官東京ハ警視長官ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一箇年以內管轄内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解散セシムルコトヲ得内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一箇年以內全國内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルコトヲ得

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得ス

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連結通信スルコトヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催ス

ヲ得ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

第十一條 第二條第一項ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ届出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルトキ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十二條 第五條ノ規程ニ背キ派出所警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁獄ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス又ハ偽答スル者ハ全罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十三條 派出所警察官ヨリ解散ヲ命ジタル後尙退散セサル者ハ貳圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ二圓以上二



十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦全罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルキハ之ニ監臨スルコトヲ得若シ其監臨ヲ肯セサルトキハ第拾二條ニ依テ處分ス

第十七條 學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトアルトキハ第十條ニ依テ處分ス

第十七條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルトキハ第六條ニ依テ處分ス

第十八條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若

クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十九條 成法ニ制定スルノ集會所ハ此限ニ在ラス

### ○官吏講談演說禁制

○達無號 明治十二年五月九日

凡ソ官吏タル者其職務ニ係ル外政談講學ヲ目的トシテ公衆ヲ聚メ講談演說ノ席ヲ開ク等不都合ノ儀ニ付右等ノ義無之様各長官ニ於テ取締可致此旨相達候事

### ○集會條例犯則ノ軍人並生徒處分方

○陸軍省乙第三拾二號 明治十三年五月五日

今般集會條例御發行相成候ニ付テハ陸軍々人並ニ諸生徒ニシテ右條例ノ制限ヲ犯ス者ハ總テ地方裁判所ノ處分ニ屬スル儀ト可相心得此旨相達候事

### ○集會條例犯則者届出方

○内務省番外 明治十三年五月六日

府 縣 東京府  
這回集會條例御發行ニ付テハ該條例ニ觸レ警察官ニ於テ處分セシ分並罰科ニ處セテレタル分共其時々事由詳細當省へ可届出此旨相達候事



### ○學校生徒入社臨會等禁止

○文部省達 明治十六年二月廿四日

府 縣

學校生徒ニシテ政事ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スル件ハ既ニ公布ヲ以テ禁止相成居候處近來生徒中往々心得違ノ輩アリ竊カニ臨會等ナス哉相聞ヘ教育上不都合ノ至有之候右府知事縣令ニ於テ嚴ニ取締可致ハ勿論ニ候得共尙各學校長教員等ニ於テ平常注意ヲ加ヘ右等ノ義無之樣訓戒可爲致此旨相達候事

### ○府縣會議員聯合集會等ノ禁

○第七十號布告 明治十五年十二月廿八日

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス  
其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

### ○新聞條例

○第拾貳號布告 明治十六年四月十六日

新聞紙條例別冊之通改正ス

#### 新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其發行所ノ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル

第二條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主若クハ社主ヨリ差出ス可シ

一 題號

二 記載ノ種目政治法律農工商業等ノ類

三 刷行ノ定期又ハ無定期ニシテ逐號發行スル者

四 發行所及印刷所

五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ屬籍身分氏名年齢住所

第三條 社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙ニ署名スル者ハ總テ持主社主ノ例ニ依ル

第四條 新聞紙ノ題號記載ノ種目又ハ持主社主ヲ變更セントスルトキハ更ニ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

前項ノ外第二條ノ願書ニ掲ク可キ事項ニ於テ變更アルトキハ七日以内ニ管轄廳東京府ハ警視廳ニ届出ツ可シ

第五條 持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ假ニ持主



社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得但七日以内ニ管轄廳東京府ハナ經  
警視廳由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

第六條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第七條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス公權ヲ停止セラレ及演説ヲ禁止セラレタル者其停止禁止間亦同シ

第八條 新聞紙ノ發行ヲ願出ツルトキハ保證トシテ左ノ金額ヲ納ム可シ但專ラ學術技術統計及官令又ハ物價報告ニ係ル者ハ此例ニ在ラス

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大阪橫濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

第九條 保證金ハ持主若クハ社主ヨリ爲替方又ハ銀行ノ預手形或ハ特價ニ準シタル公債證書ヲ以テ管轄廳東京府ハ  
警視廳ニ納ム可シ

新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ禁止セラレタルトキハ保證金ヲ還付ス

第十條 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ

其准許ノ効ヲ失フ者トス

刷行ノ定期ニ發行セサルトキハ七日以内ニ休業ノ旨ヲ管轄廳東京府ハ  
警視廳ニ届出

ツ可シ休業届出ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ再ヒ發行セサル者亦前項ニ同シ

無定期ノ新聞紙前號刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサル者亦同シ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ氏名并發行所ヲ記載ス可シ

第十二條 發行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳東京府ハ  
警視廳ニ届出ツ可シ

第十三條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ  
警視廳及本管始審裁

判所檢事局ニ各一部ヲ納ム可シ

第十四條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞乱スル者ト認

ムルトキハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條 各地方東京府  
ヲ除クニ於テ發行スル新聞紙前條ニ觸ル、者ト認ムルトキハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フ可シ

第十六條 新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタルトキハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押へ又ハ發賣ヲ禁シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得

府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタル時ハ其新聞紙ヲ差押へ及發賣ヲ禁スルコ



トヲ得ルモ内務卿ノ指揮ニ非サレハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス  
 第十七條 一人又ハ一社ニシテ數箇ノ新聞紙ヲ發行スル者一個ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス  
 第十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ持主社主編輯人印刷人及筆者譯者ハ共犯ヲ以テ論ス  
 第十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ其情狀ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得  
 其告訴發テ爲スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得  
 第二十條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用及罰金ヲ納完セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ可シ仍ホ足ラサルトキハ刑法第二十七條及第四十七條ニ依ル  
 保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ持主若クハ社主ハ管轄東京府ハ應警視廳ノ通知ヲ得タル日ヨリ七日以内ニ其欠額ヲ納完ス可シ若シ納完セサルトキハ其新聞紙發行准許ノ効ヲ失フ者トス  
 第二十一條 准許ヲ得ス又ハ准許ノ効ヲ失ヒタル後私ニ新聞紙ヲ發行スル者ハ持主社主編輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シタル新聞紙ヲ沒取ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第十七條ニ違テ發行シタル者亦同シ  
 第二十二條 詐偽ノ願書若クハ屆書ヲ差出シタル者及第四條第一項第五條ニ違フ者ハ持主若クハ社主一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス編輯人印刷人情ヲ知ル者亦同ク處斷ス  
 前項ノ場合ニ於テ内務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得  
 第二十三條 第四條第二項及第十條第二項第十一條第十二條第十三條ニ違フ者ハ持主若クハ社主拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其第十一條ニ違フ者ハ編輯人印刷人亦同ク處斷ス  
 第二十四條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ禁止ノ日ヨリ二年間持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ  
 第二十五條 沒收若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣者頒布者受賣者ヲ問ハス各拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

百圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シタル新聞紙ヲ沒取ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第十七條ニ違テ發行シタル者亦同シ  
 第二十二條 詐偽ノ願書若クハ屆書ヲ差出シタル者及第四條第一項第五條ニ違フ者ハ持主若クハ社主一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス編輯人印刷人情ヲ知ル者亦同ク處斷ス  
 前項ノ場合ニ於テ内務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得  
 第二十三條 第四條第二項及第十條第二項第十一條第十二條第十三條ニ違フ者ハ持主若クハ社主拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其第十一條ニ違フ者ハ編輯人印刷人亦同ク處斷ス  
 第二十四條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ禁止ノ日ヨリ二年間持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ  
 第二十五條 沒收若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣者頒布者受賣者ヲ問ハス各拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス



十八年七月第二十一號布告ヲ以テ改正

- 第二十六條 新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フ可シ違フ者ハ編輯人拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十七條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨリ其出所ノ訊問ヲ受ケタルトキハ之ヲ証明ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ
- 第二十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ
- 第二十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルトキハ其求テ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ル、者及之ヲ求メタル者ノ氏名詳ナラサルトキハ此限ニ在ラス
- 第三十條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ正誤ヲ載セタルトキハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其官報又ハ新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト總テ前條ノ例ニ依ル官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ハ其官報又ハ新聞紙ノ題號並刷行ノ年月日ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十一條 式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ハ當該官司ノ許可ヲ

- 得ルニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其大意ヲ錄シ若クハ草按ヲ掲載スルモ亦同シ
- 第三十二條 官省院ノ議事及縣府會ノ傍聽ヲ禁シタル議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ
- 第三十三條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以前ニ之ヲ記載スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事及傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ
- 第三十四條 陸軍卿海軍卿ハ特ニ命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ記載スルコトヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ印刷器ヲ沒收ス
- 外務卿ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ記載ヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ罰前項ニ同シ
- 第三十五條 新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止マル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス
- 第三十六條 刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ル、者ハ印刷器ヲ沒收ス



第三十七條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊乱セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其第三十五條ニ觸ル者ハ重ニ從テ處斷ス本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ沒收ス

第三十八條 成法ヲ誹毀シ國民法ニ違フノ義ヲ乱ル者及顯ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 猥褻ノ文辭圖書及誹謗ヲ寓シタル戲畫ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十九條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事ニ係ル者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四十一條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十二條 外國ノ新聞紙及ヒ書籍ヲ譯出シ新聞紙ニ記載スル者亦此條例ニ依ル  
附則  
現今發行ノ新聞紙ハ東京府下ハ此條例發布ノ日ヨリ其他ノ地方ハ到達ノ日ヨリ三十日以内ニ此條例ニ從ヒ願書及保證金ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ニ差出ス可シ若シ

期限内ニ差出サ、ルトキハ准許ノ効ヲ失フ者トス其願書及保證金ヲ差出シタル者ハ引續キ發行スルコトヲ得

○新聞紙雜誌納出方

○內務省乙第七號 明治十四年二月二日 廳府縣東京府ヲ除ク  
新聞紙雜誌雜報等從來發兌ノ都度二部宛圖書局へ納出候處自今警保局へ可爲納出此旨相達候事

○在官中私ニ新聞紙へ公事掲載禁制

○太政官達第百三十一號 明治六年四月十日 諸省府縣  
在官ノ者官中ノ事務ハ勿論或ハ外國交際ノ妨碍トナルへキ類ハ瑣細ノ件ト雖私ニ新聞紙へ令掲載候儀不相成候事  
但公布ヲ經ル文書又ハ其長官ヨリ差圖ノ分ハ此限ニ非ラス

○官吏タル者官報公告ヲ除ク外私ニ新聞紙へ政務叙述禁制

○太政官達第百十九號 明治八年七月七日 院省使廳府縣  
凡ソ官吏タル者官報公告ヲ除クノ外新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ於テ私ニ一切政務ヲ叙述スルコト不相成候條此旨相達候事  
但百般學科ニ係ル叙述ハ此限ニアラス

○附錄甲編

新聞紙雜誌納出方○在官中私ニ新聞紙へ公事掲載禁制 七十七  
官吏タル者官報公告ヲ除ク外私ニ新聞紙へ政務叙述禁制







ニ記載スルヲ得ス

檢事長 檢事

○司法省訓令第十號 明治十九年六月廿一日  
新聞紙條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得  
ストアルハ公判ノ半ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辨論  
ヲ記載スルコトヲ得サル義ニシテ裁判官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨ  
リ以下ノ辨論ノミヲ指スモノニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣ニ付此  
旨心得ヘシ

○出版條例

○第三百三十五號布告 明治八年九月三日

明治五年(正月)文部省布達出版條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候事

出版條例

第一條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントスル者ハ出版ノ  
日ヨリ到達日數ヲ除キ十日前ニ内務省ニ届出ツ可シ  
但シ社則塾則引札ノ類印刷シテ發賣セサル者ハ此例ニアラス  
第二條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ三十年間專賣  
ノ權ヲ與フヘシ此專賣ノ權ヲ版權ト云フ  
但版權ハ願フト願ハサルトハ本人ノ隨意トス故ニ版權ヲ願フ者ハ願書ヲ

十六年六月第廿  
一號布告ヲ以テ  
報告

差出シ免許ヲ請フ可シ其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

内務省甲第十四號布達 明治九年五月二日

各歲九月御布告相成候出版條例第二條但書ニ(其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス)ト有  
之候得共出版屆ノ儀ハ第一條ノ通出版ノ前必ス當省へ可届出儀ト可相心得此旨布達候事

第三條 出版屆版權願トモ草稿ヲ添ルニ及ハスト雖モ時トシテハ草稿ヲ徵シ  
檢査スルコトアル可シ

第四條 草稿又ハ納本ヲ檢査シテ世治ニ害アル者ト認ムル者ハ其出版又ハ販  
賣ヲ禁シ或ハ刻版ヲ毀タシムルコトアル可シ

第五條 出版屆版權願トモ其所在ノ地方廳本籍又ハ寄留ノ地方廳ヲ經由ス可シ

但著譯者其管轄ヲ異ニスル者ハ出版人所在ノ地方廳ヲ經由ス可シ

第六條 圖書ノ特ニ世ニ鴻益アル者ハ版權ノ年限終ルノ後仍ホ十五年間ノ延  
期ヲ許スコトアル可シ

第七條 版權免許ノ爲メニ其年限ヲ記セル証書ヲ附與ス可シ年限終ルノ後ハ  
各人一般ニ出版スルヲ許ス

第八條 著譯書大部ニシテ卒業數年ニ涉リ編ヲ逐ヒ漸次出版スル者ハ每次ニ  
版權ヲ與ヘ年限ヲ起算ス可シ

第九條 他人ノ著譯書已ニ版權ヲ有スル者ヲ續成セント欲スル者ハ原主ニ示  
談ノ上連印ノ願書ヲ出ス可シ其原主死去セル時ハ相續人ヲ以テ原主ト看做



ス可シ

第十條 他人ノ著譯書版權ヲ有スルモノヲ校訂シ或ハ節畧シ或ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘテ出版スル者モ亦原主ノ承諾ヲ得サル可カラス其出願ノ手續ハ前條ニ依ル可シ

第十一條 既ニ版權ヲ有スル自己ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節畧シ或ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘテ出版スルキハ更ニ願出ルニ非サレハ版權ヲ得ヘカラス其製本ノ式ヲ改メ若クハ冊數ヲ分合シテ改版スルニ止リ若クハ舊式ニ依テ再刻スル者ハ版權ヲ存ス

但屆書ヲ出シ製本ヲ納ムルハ各本條ニ依ル可シ

第十二條 著譯者死後ニ至リ其相續人遺稿ヲ出版スルコトヲ得其版權ヲ願フキハ之ヲ與フ可シ

第十三條 版權年限未タ終ラサルノ間ハ板主ノ相續人ニ傳フ可シ

但シ版權讓受ノ由ヲ相續人ヨリ内務省ヘ届ケ出ツ可シ

第十四條 他人ノ著譯書ヲ出版スル者ハ必ス著譯者ノ承諾ヲ得可シ其版權願書若クハ出版屆書ニハ必ス著譯者ト連印スヘシ

第十五條 版權ヲ得タル者ハ他人其餘章ヲ剽竊スルヲ許サス

但シ論辨若クハ証明スル爲メニ引用スル者ハ此例ニアラス

第十六條 同時若クハ前後ニ偶然同様ノ圖書ヲ著譯シ版權ヲ願フ者二人以上アル時ハ共ニ版權ヲ與フ可シ其事情明白ナラサル者ハ事由ヲ検査シテ後チ之レヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十七條 外國ノ圖書既ニ甲者ノ成譯アリト雖モ乙者又之ヲ譯シ甲者ノ誤謬ヲ正シ又ハ闕漏ヲ補ヒ及ヒ其文意ヲシテ一層明瞭ナラシムルノ確証アルモノ版權ヲ願ヒ出ル時ハ検査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十八條 著譯ノ圖書同名ノ者アリト雖モ文理不同ナルニ於テハ妨ケナシトス

但シ表題ノ上何某ト記載スヘシ

第十九條 出版ノ圖書ハ内務省ニ於テ目錄ヲ作り時々公布ス可シ

第二十條 圖書刻成ノ上ハ製本三部ヲ内務省ヘ納ム可シ其版權ヲ得ル者ハ外ニ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ納ム可シ

納本セス及ヒ免許料ヲ出サ、ル前ハ發賣ヲ許サス

但シ出版ノ上毎部定價ノ印ヲ押スヘシ

第二十一條 出版ノ圖書ニハ著譯者ノ住所氏名ヲ記ス著譯者ノ氏名ヲ知ルヘカラサル者ハ其由ヲ記ス可シ而シテ何年月日出版或ハ何年月日版權免許ト記シ板主ノ住所氏名ヲ記スヘシ氏名ヲ記セスシテ別號ヲ記スルコトヲ得ス



板權ヲ相續シ若クハ賣買若クハ分板シタルキハ相續人買主及ヒ分板ヲ受ケタル者ノ住所氏名ニ改ムヘシ

第二十二條 板權ノ賣買ハ勝手タル可シ賣買スルキハ双方連印シテ其由ヲ内務省へ届出ツヘシ

第二十三條 板權ヲ分テ譲リ若クハ賣リ同一ノ圖書ヲ各自ニ出版スルコト妨ケナシ之ヲ分板ト名ク

但シ双方連印シテ届出ルコト前條ノ如シ

内務省甲第八號布達 明治十二年四月廿五日  
出版條例第二十三條但書双方連印ノ儀自今甲者所有ノ版權ヲ既ニ乙者ニ分版シ後又丙者ニ分版スルキハ甲乙丙者共連印ノ上可届出儀ト可相心得此旨布達候事

第二十四條 板權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分板シ及ヒ改板シテ届ケ出サル者ハ其板權ヲ失フヘシ

第二十五條 願濟ノ表題ヲ變改シ若シクハ納本ノ後ニ新タニ序跋ヲ加フル者ハ其趣ヲ届出テ更ニ納本ス可シ若シ届出テヌ又ハ納本セサル者ハ其板權ヲ失フヘシ

第二十六條 免許狀ヲ失フ者ハ其趣ヲ届出テタル上更ニ之ヲ與フ可シ

但手數料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

第二十七條 小説歌謠ヲ出版スル者亦此ノ條例ニ從フヘシ

十六年六月第二十一號布告ヲ以テ改正

第二十八條 彫畫ノ類ヲ出版セントスル者ハ出版前ニ内務省ニ届ケ出可シ

但シ板權ヲ與ヘス

内務省甲第四十二號布達 明治九年十一月十五日  
彫畫類是迄三部ノ納本致來候處自今尋常彫畫錦畫等ヲ云フニ限り刻成之都度一部可相納此旨布達候事

九年二月第十二號布告ヲ以テ第二十九條及第三十條追加

第二十九條 版權免許狀附與ノ後版權賣買或ハ改題等届出ノ上雛形ノ通藏板人免許狀へ地方廳印ヲ請フ可シ

第三十條 裏書餘白ヲキニ至ラハ更ニ免許狀書換願出ツヘシ  
但シ願出ル者ハ手數料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ム可シ

九年五月第八十三號布告ヲ以テ第三十一條追加

第三十一條 都合ニ因リ版權ヲ要セサル旨ヲ以テ免許狀返納スル者ハ其手數料トシテ金三十錢ヲ納ムヘシ  
但シ收納方ハ免許料ト同様タルヘシ

罰則

十六年六月第二十一號布告ヲ以テ改正

第一條 内務省へ届ケスシテ圖書ヲ出版シ及ヒ版權免許ヲ得スシテ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本セス及ヒ免許料ヲ出サスシテ發賣スル者又ハ出版發賣ヲ禁止セラレタル圖書ヲ出版發賣シタル者ハ刻版印本及ヒ賣得金ヲ沒收ス  
第二條 凡ソ偽版ヲ作り或ハ書中ノ字句及ヒ繪圖ノ模様ヲ小變シ若クハ少加シテ其表題ヲ改メ其他總テ他人ノ版權ヲ侵シテ出版スル者ハ罰金二十圓以



上三百圓以下ヲ科シ其刻版印本及ヒ賣金ハ沒收シテ版主ニ給與ス

第三條 第一條及ヒ第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ之ヲ發賣スル者ハ罰金五圓以上百圓以下ヲ科ス其第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ發賣スル者ハ現存ノ圖書及ヒ賣得金ヲ沒收シテ版主ニ給與ス

第四條 無名若クハ版主ノ住所ヲ記サ、ルノ圖書ヲ出版シ若クハ發賣スル者並ニ變名偽名シ若クハ住所ヲ偽リテ圖書ヲ出版シ若クハ情ヲ知テ發賣スル者ハ禁獄十日以上六月以下ヲ科ス

但沒收ノ法ハ第一條ニ依ル

第五條 凡ソ著譯ノ圖書新聞紙條例第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十七條第三十八條第三十九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ著譯者出版者共犯ヲ以テ論シ該條例ニ依テ罪ヲ科ス

但印刷器ヲ沒收スルハ第七條第二項ノ場合ニ限ル

第六條 法司圖書犯則ノ訴ヲ受レハ即時刻版及ヒ現存ノ印本ヲ勾收セシメ論決スルニ至テ官ニ沒ス

活版ヲ用フル者ニシテ出版人自ラ印刷ヲ管スル者若クハ付スル所ノ印刷人犯情ヲ知ル者ハ印刷器ヲ沒收ス

十六年六月第廿一號布告ヲ以テ改正

十六年六月第廿一號布告ヲ以テ削除

第八條 既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ上犯則ニ涉ル者ハ仍ホ本條ニ依リ罪ヲ科ス

○內務省甲第一號布達 明治十四年四月廿九日  
出版々權許可ノ圖書刻成前定價ヲ豫定シ免許料上納候向モ有之候處自今刻成ノ上々納可致此旨布達候事

但明治九年當省甲第四十一號布達ハ取消候事

○內務省第八號告示 十八年三月七日  
版權返納之儀自今願出ニ不及候條免許証相添其旨內務省へ届出ツベシ但手數料ハ届出ノ節直ニ地方廳へ相納ムベシ

○寫真條例

○第九拾號布告 明治九年六月十七日

寫真條例

第一條 凡ソ人物山水其他ノ諸物象ヲ寫シテ專賣ヲ願出ル者ハ五年間專賣ノ權ヲ與フヘシ之レヲ寫真版權ト稱ス  
但之ヲ願ハサル者ハ別段届出ルニ及ハス  
第二條 版權ヲ得タル寫真ニハ必ス每葉寫生ノ標號及ヒ定價並ニ版權免許ノ年月ヲ記載ス可シ



第三條 版權ヲ得タル者ハ寫真一版ニ付キ三葉ヲ納メ仍ホ免許料トシテ一版ニ付キ十二葉ノ定價ヲ納ムヘシ之レヲ納メサル前ニ發賣スルヲ許サス

第四條 出版條例第七條第十三條第二十一條ノ第二項第二十二條第二十三條第二十四條及ヒ第二十六條ハ寫真版權ニ適用ス可シ

但出版條例第二十六條但書ノ手数料ハ一版ニ付キ六葉ノ定價ヲ納ム可シ凡ソ願屆書等ノ手續モ總テ出版條例ニ依ル可シ

第五條 凡圖書ヲ寫真スル者ハ翻刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版條例ニ依ル可シ第六條 第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ現在ノ寫真ヲ沒収シ壹圓

ヨリ少ナカラス十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ仍ホ版權ヲ追奪スヘシ第七條 他人ノ版權ヲ侵シ寫真ヲ覆寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ之レヲ發賣シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ現在ノ寫真ヲ沒収シ二圓ヨリ少ナカラス

二十圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム

○銃砲取締規則

○第二十八號布告 明治五年正月廿九日

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月一日ヨリ規則之通可相守事

銃砲取締規則

第一則

一大小銃并彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷右定員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事  
但東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

一府下 各五員

一縣下 各三員

一鑛臺本分營下 各一員

但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス

一開港場 各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等東京武庫司ヘ届ケヘキ事

第二則

一免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司ヘ可願出事

一免許商人ハ陸海軍準士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入レントスルキハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事



第三則

一 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎月其管廳へ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管廳鎮臺へ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司へ差送可申尤東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ取縮可致事

第四則

一 彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミナ計リ勝手ノ場所へ差置間敷兼テ其地方管廳へ願出差圖ヲ受相圖可申事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司へ願出ヘキ事

第五則

一 華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲並彈藥類ヒストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大坂ハ武庫司へ持出別紙銃砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人へ譲リ與へ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ

但彈藥買入致度者モ亦二則ノ通タル可シ

銃砲改刻印式

千支何番

武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置管轄鎮臺へ届出鎮臺ヨリ東京武庫司へ差送リ可申事

免許ノ銃類

一 和銃四文目八分玉以下

一 各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナルトモ霰彈ヲ用ヰルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳へ届出其廳ヨリ東京武庫司へ差出可申東京大坂ハ所持ノ者ヨリ直ニ武庫司へ届出ヘシ萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨モノ官へ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ證印ヲ据へ可相渡事

第六則 十年第十一號鳥獸獵規則頒布ニ付刪除

第七則

一 銃砲彈藥下々ニ於テ猥ニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管廳へ相願管轄鎮臺へ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り檢査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳



〜爲差出其廳ヨリ東京武庫司へ可差出事  
但東京大坂ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司へ可届出事  
右之通ニ候事

○同上違犯者處分方

○第二百八十二號 明治五年九月廿三日

諸省府縣

銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候條此旨相違候事

一銃砲取締規則ニ違銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事  
一免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事

但書同前

右取上ケ候品東京大坂ハ武庫司其他ハ所管ノ鎮臺へ可差出事

○爆發物取締規則

○第三十貳號 明治十七年十二月二十七日

爆發物取締規則別冊之通制定ス

右奉 勅旨布告候事

爆發物取締規則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫激發煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコト證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以



上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

○火藥取締規則

○第三十一號 明治十七年十二月二十七日

火藥取締規則別冊之通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス  
右奉 勅旨布告候事

火藥取締規則

第一章 總則

第一條 凡火藥劇發火藥火藥劇發火藥ナイトロケリセリンダイハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マツチノ類ハ此限ニ在ラス

第二條 火藥類火藥類ヲ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳東京府ハニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳東京府ハニニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ検査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下クヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラス

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ證書アレハ翌月十日迄ニ所轄警察署ヘ届出可シ



第八條 營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡證書ヲ取リ置ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未滿若クハ白痴瘋癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

十九年十月廿日  
勅令第六十七號  
ヲ以テ改正削除

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免許ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸軍海軍軍人ノ射的用途ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量并使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用 火藥 三百目 雷管 五百個

船舶設備銃砲用 大砲一門ニ付 火藥 五十發分 導火管類 七十個  
小銃一挺ニ付 火藥 百發分 雷管 百五十個

烟火製造用 火藥 五貫目

坑業土工其他職業用 火藥 二百貫目  
劇發火藥 三十貫目

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量并使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受ク可シ此場合ニ於テハ直ニ

全  
上

陸軍海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコトヲ得

第十一條 營業者ハ買受人ノ免許ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ證書アルハ之ヲ添ヘ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄管轄東京府ハ警視廳ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫之外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ

第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置并ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添へ管轄東京府ハ警視廳ニ願出許可ヲ受ク可シ



第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱線船ノ通スヘキ河洶及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラヌ又避雷針ヲ設ケ庫外ノ用圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木曲尺六尺以上ニシテ五寸角以上ノモノヲ建ツ可シ

第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材本草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラヌ又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラヌ

第二十條 坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ニ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳府ハ警視廳ニ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限以上ノ火藥類ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 煙火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ

全上

有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラヌ

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鉄釘鉄輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ筵包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ビ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱二尺橫二尺五寸水路ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ明治六年八月第貳百九拾貳號布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ミ看守人ヲ附ス可シ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第百五十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第百六十條ヲ適用ス



第二十六條 刑法第百五十八條第百五十九條第百六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一從前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳京東府ハ警視廳ニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ク可シ

十九年十月廿日  
敕令第六十七號  
ヲ以テ第十條  
違犯シ以下十五  
字ヲ消除アリ

一從前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又從前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

○火藥運搬條規

○工部省告示第十四號 明治十八年四月十日  
明治五年五月 第百四十六號公布鐵道略則第十六條ニ依リ火藥類鐵道運送條規左ノ通相定ム但此條規ハ私設鐵道ニモ適用スルモノトス

火藥類鐵道運送條規

第一條 火藥類ハ鐵道局ノ都合ヲ以テ之ヲ運送スルコトアルヘシ

第二條 火藥類ハ別仕立列車或ハ旅客車ヲ連續セサル普通ノ貨物列車ヲ以テ運送スヘシ但兵員乘車ノ時其攜帶スル彈藥ハ此限ニアラス

第三條 火藥類ヲ運送スルノ賃金ハ百斤ニ付一哩金壹錢貳厘ト定ム但三千五百斤以下及二十哩以內ト雖モ猶本哩ニ當ル金額即チ金八圓四十錢ヲ徵スヘシ

第四條 火藥類ヲ運送セントスル者ハ其名稱種類量數及送受人ノ氏名住所ヲ記載シタル書面ヲ四拾八時間以前ニ鐵道局ニ差出シ其承諾ノ證ヲ領受スヘシ



シ其證ナキトキハ之ヲ運送セサルモノトス但非常急劇ノ際ハ此時間ノ限ニ  
アラス

第五條 火藥類ノ受渡ヲ爲スハ鐵道局員ニ限ルヘシ且其時間ハ日出後日没前  
ニシテ鐵道局ニ於テ特ニ指定スル日時ヲ限ルヘシ

第六條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ストキハ其桶箱等ハ成ルヘク互ニ手  
渡ヲ爲シ決シテ地上ニ投下シ又ハ輾轉セシムヘカラス若シ輾轉セサルヲ得  
サルトキハ必ス革布木綿等ヲ以テ其經過スヘキ地上ヲ蔽フヘシ

第七條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ス者ハ鋼鐵或ハ釘ヲ附シタル靴類ヲ  
穿チ又ハ摺附木等ノ發火質アル器具ヲ携ヘ又ハ吸烟スルヲ許サス

第八條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ始ムルトキハ之ヲ終ルマテ少時間ト雖  
モ猶豫スヘカラス又其事ニ預ラサル他人ノ其場ニ近クテ防クヘシ

第九條 火藥類停車場若クハ鐵道ノ倉庫ニ到着シタルトキハ六時間以内ニ其  
受取方ヲ爲スヘシ此時間ヲ過クレハ一時間毎ニ一頓ニ付金二圓ノ遲滞料ヲ  
徴スヘシ

第十條 鐵道局ハ火藥類ノ受渡庫入運送荷揚荷積ノ爲メ火藥類ニ生シタル損  
害并ニ之ニ原因シテ他ニ及ヒタル損害ハ勿論其他何等ノ事アルモ其責ニ任  
セサルモノトス但鐵道局員ノ過失ニ因テ起ルモノハ此限ニアラス

第十一條 火藥類ノ運送ヲ委托スル者ハ前ニ列記シタル條規ヲ承認シタル證  
トシテ鐵道局ヨリ下付シタル條規寫書ノ端末ニ署名捺印スヘシ

○鳥獸獵規則

○第十一號布告 明治十年一月廿三日

鳥獸獵規則別紙ノ通改正候條此旨布告候事

鳥獸獵規則

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トス遊樂ノ爲メニスルヲ  
遊獵トス

第二條 銃獵免狀ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クタメニ  
ハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ  
東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ヘ差出スヘシ

第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受ス  
ルヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免狀稅ヲ納ムヘシ

- 一 職獵稅 金壹圓
- 一 遊獵稅 金拾圓



第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受クル者ハ更ニ税金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ手数料トシテ金二十五錢ヲ納ム可シ

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀ヲ付與セサルヘシ  
一十六歳未満ノ者  
一白痴風癲等ノ者

一故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ禁ス  
一都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃ニ挺ヲ交又シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

一作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ル可シ軍銃ヲ用ヰルヲ禁ス

但開拓使管内ニ限リ和銃玉丸目拾匁以下ヲ用ヰルヲ得ヘシ

第十條 銃獵期限ハ十月十五日四月十五日迄ヲ以テ一期トス是時間ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニヨリ已ムヲ得ス此期限ヲ伸縮スル時ハ其理由ヲ農商務省ヘ届出ヘシ

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帶スヘシ出獵中警察官吏區戸長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アル時ハ直ニ之ヲ示ス可シ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスル時ハ第八條所示ノ如キ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲナスヘシ

第十四條 凡テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期內銃獵ヲ禁ス可シ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ證據ヲ取り訴出ル時ハ犯人ノ罰金ノ半ヲ賞トシテ與フ可シ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス二拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ



第十八條 開拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵フヘシ

○朝鮮人鳥獸獵免狀下付及處分方

○第拾二號農商務省達 明治十六年十月二日

本邦在留朝鮮人鳥獸獵免狀ヲ請求スルキハ遊獵免狀ヲ下付シ總テ内國人同様處分候儀ト可相心得此旨相達候事

○僧侶托鉢免許

○內務省乙第三十八號 明治十四年八月十五日 府 縣

今般戎第二號ヲ以佛道各管長ヘ別紙之通相達候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢差止頓未詳細取調該宗管長若クハ其地取締ヘ通知スヘシ此旨相達候事 戊第二號 明治十四年八月十五日

佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候事

托鉢免許方并托鉢者心得

一托鉢ヲ免許セシトキハ左ノ雛形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳ヘ通知シ東京ハ警視廳ヘモ通知スヘシ

一托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス

但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限

一托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帶シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニアラザレハ人家ニ接近シ濫リニ步ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞フ許サス

一托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公衆來往ノ便ヲ妨クヘカラス

一免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

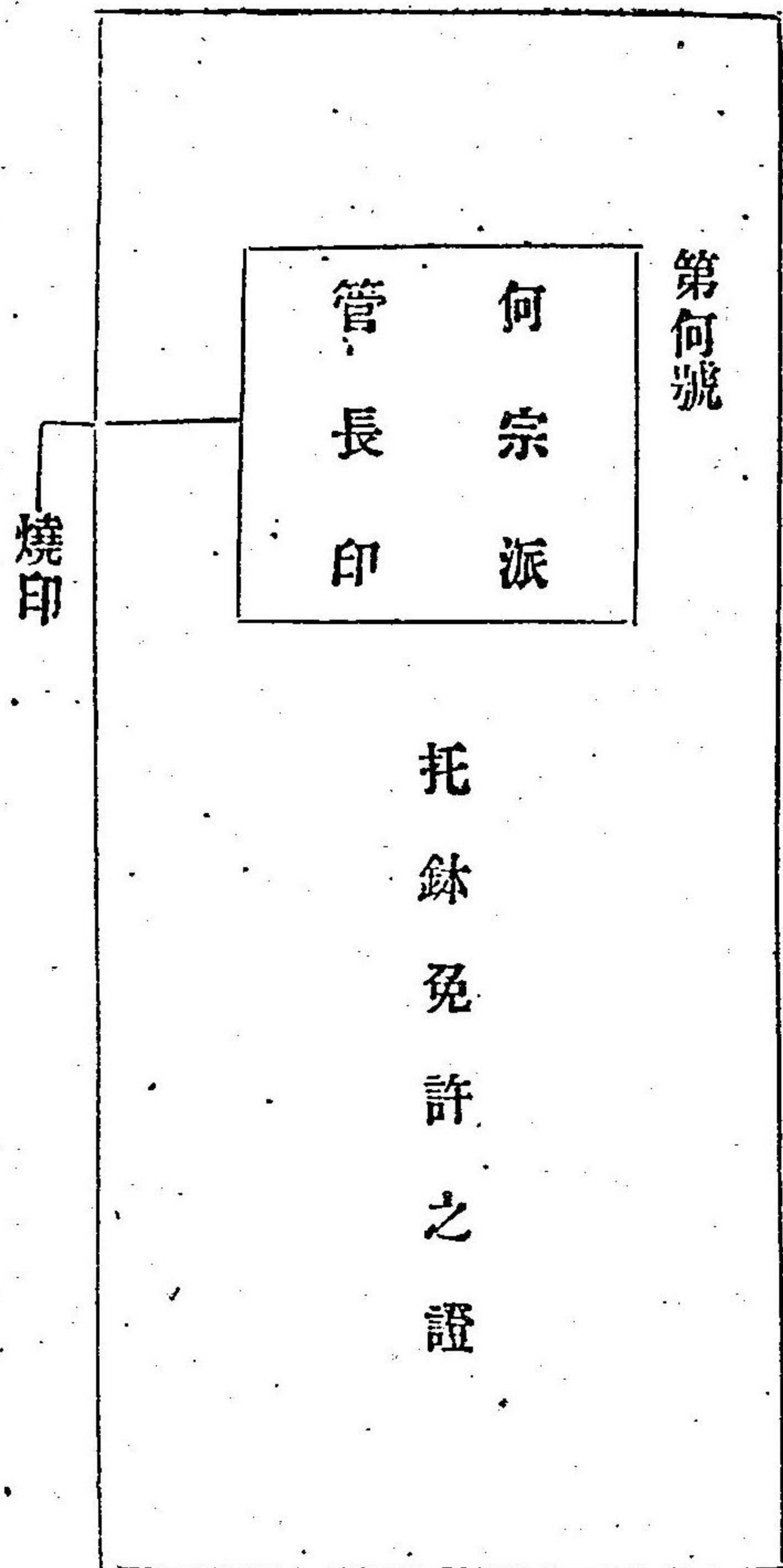
標牌雛形

木製

縱六寸 横二寸

第何號

表





何府國郡區  
町村

何寺住職  
徒弟

教導職名  
試補

裏  
年月日

何  
年月日生 某

○賭博犯處分規則

○第壹號 明治十七年一月四日

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内  
行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則  
ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム  
右奉勅旨布告候事

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上貳百圓以  
下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦

同シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ橫  
行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及五拾圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス  
其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入ル

コトヲ得但警察官巡查ハ其證票ヲ攜帶スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便

宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

○富興行禁制

○布告 明治元年十二月二十三日

富興行之儀者兼テ御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺  
再建等ニ託シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖之利ヲ以テ民心ヲ誘惑  
スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々是カ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相  
聞ヘ以ノ外之事ニ候斯御一新折柄右様之所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀ニ付更  
ニ嚴禁被仰出候事

○富籤賣買罰則



○布告第二十五號 明治十五年五月廿四日

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未ダ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未ダ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒収ス  
自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

右奉 勅旨布告候事

○密賣注

○內務省乙第九號 明治九年一月二十三日

本年第壹號ヲ以テ改定律例第二百六十七條廢止ノ儀御布告相成候ニ付テハ過料三拾圓以內懲戒六ヶ月以內適宜ノ方法ヲ設ケ賣淫取締一層行届候様處分スヘク此旨相達候事

但シ取締方當省へ届ケ出ヘク事

○第六拾四號 明治十四年十二月九日

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百貳拾五條第十項ニ明文有之候へ正當分ノ内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官へ委任ス

○遺失物取扱規則

○第五十六號布告 明治九年四月十九日

遺失物取扱規則

第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルコトヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルコトヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサルハ之ヲ官



ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ク詳細ニ記載シ速ニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルコトヲ得且得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラスニ拾圓ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ争フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止ク其費用ノミヲ償ハシム

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト中分セシム

但盜賊ニ係ルモノハ此限ニアラス

第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルコトヲ第二條ノ如シ

第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルコト第三條第四條

ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス

第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ

第十條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルコト私物ニ異ナルコトナシ

第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス并ニ官ニ沒ス

第十三條 凡公私債證書地券鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルコトヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

○内務省甲第二十號 明治十年九月二十七日



明治九年(四月)太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中チ古代ノ沿革ヲ徵スルモノ有之候ニ付處分前一應當省へ届出檢査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人へ下付シ該物品ハ永ク博物館へ陳列可致候條此旨布達候事

但シ物品ハ先ツ掘出地名及ヒ形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫スルモノヲ郵送シ見込ミアルモノニテ遞送方相達候後チ本文ノ通り可取計候事

○宮内省達第十三號 明治十九年十月廿七日 北海道廳府縣  
明治十年九月内務省甲第二十號布達ノ件ハ自今當省へ届出ツヘシ

○内國船難破及漂流物取扱規則

○第六十六號布告 明治八年四月廿四日

内國船難破及漂流物取扱規則

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管轄廳ヨリ區戶長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲メニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見付

次第直チニ浦役人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之ニ速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ

但シ救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物品ヲ積ミ移スヘカラス

第四條 浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ルキハ速カニ其乗組人及ヒ船体積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡スヘシ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等打鳴ラシ人數ヲ呼聚メ且ツ近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシムヘシ

第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキキハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシムヘシ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最モ安全ニシテ且ツ便利ノ場所ニ之レヲ置クヘシ尤モ小屋掛ヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲ爲シ諸事懇切ノ取リ扱ヒヲ致スヘシ

第七條 難船ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知スヘシ

第八條 難船物ヲ保安スル者へハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハスヘシ



第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一

第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一

第三 川面ニ漂流スル物品ハ其三十分一

第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但シ其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人數及ヒ救助ノ爲メニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ之レニ就テ尽力シタル証跡顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡スヘカラス

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ汐入り水濡レ等ノ爲メニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之レヲ入札拂ヒニ爲スヲ得ベシ

但シ本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ク最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札拂其他衆人ノ眼前ニテ之レヲ爲シ且ツ其物品ノ目錄及ヒ買入ノ證書並ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂ヒタルキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシムヘシ

第一 保安料

第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃

第三 保安物ノ爲メニ取設タル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢

第四 乗組人ノ者怪我人有之節其療養入費

第五 同前ノ者溺死スルキ其搜索入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少キキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキキハ第十五條ニ照準シテ處置スヘシ

第十二條 右ニ掲載シタル諸入費ハ之レヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トスヘシ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲メニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ官廳其外等へ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃

第四 救助人溺死シタルキ其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スルキ治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必用品代料又ハ販郷旅費等ヲ貸遣ハシタルキハ証書ヲ取置キ第十九條ノ通り精算書中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セシムヘシ



第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ船体皆破沈没乗組人ノ死去及積荷ノ大損害ヲ生シ荷主船主立會決算ヲ要スル等ノモ現場ノ救助方ヲ除クノ外各船ノ處置ハ其管廳ニ申立テ其節出張官員ノ差圖ヲ受クヘシ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得ヘシ

第十五條 船体積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲メニ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シ管廳ヘ差出スヘシ

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲メ盡力シテ死傷ニ至ル者アルトキハ必ス管廳ヘ届出ツヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給スヘシ

第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタルキハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル證書二通ヲ作り之レニ連署押印シ其一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置クヘシ

第十八條 三名以上ノ浦役人合議ノキハ其内一名ハ必ラス他村ヨリ出ツヘシ  
第十九條 難船救助ニ属スル諸費用ニハ二名ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照ラシ夫々其

費用ノ種類ヲ區別シ成ル可ク速ニ精算書ヲ作クリ之ニ難破明細書ヲ添ヘテ管廳ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

但シ精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要スヘシ  
第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ廉無之キハ早速下ケ渡スヘシ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫スヘシ

但シ民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人ヘ下渡スヘシ

第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦證文ヲ願出ルキハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之レニ照ラシ各々符合スルキハ浦證文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管廳ヘ届出ヘシ

但シ浦證文中左ノ箇條ヲ載スヘシ

- 第一 難破ニ逢ヒタル場所其時日及ヒ風波ノ模様
- 第二 破損ノ箇所
- 第三 打荷ノ種類箇數並他ノ積荷ノ種類
- 第四 船號及ヒ免狀ノ番號並ニ船主船長ノ本貫苗字名乗組人數



第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之キハ其本貫苗字名年齢

第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助スヘシ且ツ其難破ノ大小ニ拘ハラズ其旨ヲ直チニ管廳ヘ報知スヘシ

第二十三條 前條ノ救助ニ属スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直チニ受取ルベシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十四條 貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳ヘ申立ノ上其指揮ヲ受クヘシ

但シ郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所ヘ郵便行囊ヲ至急引渡スヘシ

第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラス十錢ヨリ少シカラサルモノトス

難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置クヘシ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スルキハ

右損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄人智ノ前知スヘカラス人カノ豫防スヘカラサルニ出ルコト瞭然明證スルトキハ此限リニ在ラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ竊ニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ託シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ與スル者又ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照ラシテ處分スヘシ

第二十九條 以下漂着ノ部 凡ソ原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ見附タル者ハ之ヲ浦役人ニ報知スヘシ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ヘ届出ヘシ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船役所ヘ六十日間張出スヘシ尤モ漂着物ノ代價二十圓以上ト思量シ或ハ二十圓以下タリモ必要ノ品柄ト思量スルキハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ税關ヘ報告シテ張出ヲ爲シ或ハ新聞紙ニ載セテ公告スヘシ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタルトキハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ  
第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ



返還スル事

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主へ與ヘ一半ハ官ニ収ムル事

但シ三ケ年以内ニ其持主知レタルトキハ官ニ收メシ部分ハ下戻スヘシ

第三十二條 乗組人無之漂着船ノ持主知レタルキハ左ノ區別ニ循ヒ處置スヘシ

第一 一ケ年以内ハ其積代價ノ十分ノ一ヲ見附主ニ與ヘ其船ハ持主ニ返還スル事

但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分ノ一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ハ官ニ収ムル事

但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 第二條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト抵觸スルコトナカル可シ

第三十四條 凡ソ漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ輿印シタル證書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償

却スヘシ

第三十五條 洋中ニ於テ難破イタシ桅檣其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通リ取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置キ直チニ管廳ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本人飯郷ノ旅費其他ノ手當等貸遣ハシ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人ヨリ償却セシムヘシ

第三十六條 凡ソ漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照ラシテ處分スヘシ

第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クルキハ此規則第二十九條以下ニ照準シ其代價十分ノ一ニ過キサル取揚料ヲ遣ハスヘシ

第三十八條 前條ノ場合ニ於テ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ

○古物商取締條例

○第五拾號 明治十六年十二月廿八日

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス  
右奉 勅旨布告候事

古物商取締條例

第一條 古物商トハ古道具古本古書畫古着古銅鐵漬金銀ヲ賣買スル營業者ヲ

明治十年三月十日  
第百二十九號布  
告ヲ以テ改正

明治十一年十月  
十五日第百三十二  
號布ヲ以テ追  
加



云フ

袋物屋小間物屋鼈甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其証人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癲者及ヒ雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其証人タルトキハ此限ニアラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル証人貳名以上アルニ非サレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルハコトアルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取タルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作りヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署



ニ届出ツヘシ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

- 一 物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形状條章番號柄摸樣損所ノ類ヲ云フ價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ
- 二 日出前日歿後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形状價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラレハコトアルヘシ

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ



若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府ヲ除ク縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

○質屋取締條例

○第九號布告 明治十七年三月廿五日

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス

質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ捺捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス

但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サルハコトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ  
第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ



第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書八十年間保存スヘシ若シ亡失シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物質ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年内ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ罰法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○傳染病豫防規則

○第三拾四號布告 明治十三年七月九日

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸窒扶私赤痢實布埤利亞發疹窒扶私及痘瘡ノ六病ヲ云フ

但シ六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通知スルヲ要ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出ツヘシ但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直チニ警察署ニ届出警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ケナシ

地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治愈死亡ノ數ヲ内務省ヘ申報スヘシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルキハ其性狀ヲ記シテ速カニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

第五條 諸官廳兵軍艦監獄及ヒ官立ノ學校病院製作所等ニ於テ傳染病者アルキ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺赤痢發疹窒扶私痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

十三年十二月第五十四號布告ヲ以テ第三條但書及第四條ヲ刪除